



公益社団法人
日本学生陸上競技連合

会報

向上と進展



[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

令和7年度上半期の事業を終えて

会長 松本 正之

日頃は、日本学生陸上競技連合の運営に対して格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この上半期は、2025日本学生陸上競技個人選手権大会、天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会、秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会という3つの主催競技会を開催いたしました。その間多くの関係各位のお力添えに改めて感謝申し上げます。

日本学連の組織運営の要となります会議の開催につきましては、定時理事会として日本インカレ初日に開催する第74回理事会、役員改選に関わる6月の第17回定時社員総会、また理事会開催のための企画委員会や各専門委員会の開催など、本連合の運営に関する競技や諸報告など、必要な議題を検討し、進めてまいりました。

4月に開催した日本学生個人選手権はFISUワールドユニバーシティーズゲームズ(2025/ライン・ルール)の選考会を兼ねており、世界への切符をかけたハイレベルな争いが繰り広げられました。

今年度の日本インカレは岡山県・JFE晴れの国スタジアムにて開催いたしました。66年ぶりの岡山県での開催ということもあり、地元の方、特に中高生の来場が例年以上に多く、盛り上がりを見せていました。また、大会新記録や日本学生新記録が立て続けに樹立されるなど、数々の新記録が誕生する大会

となりました。

実業団・学生対抗は、日本選手権で活躍した選手が多数出場し、学生競技者が学ぶことも多く大変有意義なものとなりました。また、東京世界選手権の標準記録突破を目指し、各種目でトップ選手同士の抗争が会場を沸かせました。今後も実業団と共に、この競技会を通じてより多くの方に陸上競技に対する興味・関心を持っていただけるような、より良い大会にしていきたいと思います。

7月にドイツのライン・ルールで開催されましたFISUワールドユニバーシティーズゲームズ(2025/ライン・ルール)は、多くの選手が入賞以上の活躍を見せ、中にはFISU RECORDで優勝を果たすなど輝かしい記録を日本に持って帰ってきてくれた選手もいました。今大会に出場した学生の活躍が今後の学生陸上界への刺激に繋がることを祈っております。

10月からはいよいよ下半期に入り、各種駅伝、道路競技大会が開催予定であります。開催に向け、全国の学生競技者や応援して下さるファンのためにも、地元関係者の方々のご協力を得ながら、努力してまいりますので、学生競技者諸君の一層の競技力の向上を期待すると共に、関係各位のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、ご挨拶いたします。

公益社団法人 日本学生陸上競技連合

会報 第174号 (令和7年10月25日発行)

向上と進展

目次

会長あいさつ 松本正之	1
-------------------	---

【大会報告】

天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会	3
FISUワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン=ルール)	8
2025オールスターナイト陸上	11

【会議等報告】

第74回理事会	14
第17回定時社員総会	22
第75回理事会	29

【その他】

強化委員会／総務委員会より	37
令和7年度会員について	38
賛助会員・募集／編集後記	39

【大会報告】 天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会

幹事長 三浦 拓也

1. 大会名：天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会
2. 大会期日：2025年6月5日(木)～8日(日)
3. 場 所：岡山県・JFE 晴れの国スタジアム
4. エントリー数：男子114校997名、
女子105校839名
5. 主な競技結果(下表参照)
6. 大会総括

岡山県・JFE 晴れの国スタジアムにて、天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。岡山県での開催は、1959年に行われた第28回大会以来、実に66年ぶりの開催となり、前回大会よりも地元の方々のファンの方々による来場が目立った大会であったと感じました。各大学、個性豊かな集団応援も大きな盛り上がりを見せ、最終日には岡山のシンボリック的存在である桃太郎の替え歌を環太平洋大学が中心となり、各大学と共に披露している姿が大変印象的でした。

66年振りに岡山開催が決定し、引き継ぎ資料も残っていない競技場での開催は大変不安の多い船出となりました。競技場側との各種調整や岡山陸協との審判関係の調整、環太平洋大学を中心とした学生審判員や補助員依頼等は開催実績のある地域に比べて、難しさを感じる部分が多くありました。大会自体は、晴れの国の名に相応しい好天に恵まれた4日間となりました。

本大会では初日の女子4×100mリレーから日本学生新記録が3度記録されるハイレベルな幕開けとなりました。特に予選1組目に福岡大が記録した44秒31は2年前に本大会において同大が記録した44秒51を0.2秒も上回る記録となり、決勝でもその勢いのままに優勝を果たしました。

また、女子100mハードルにおいては4月の日本学生個人選手権で激戦を

繰り広げた島野真生選手(日本女子体育大)と本田怜選手(順天堂大)の同級生対決が、岡山の地で再び繰り広げられました。それまで本田選手が持っていた学生記録を4月の織田記念陸上で島野選手が更新するという状況の中で行われた決勝では、島野選手が自身の持つ学生記録を更新する13秒02という素晴らしいタイムで走破し、本田選手の追従を許さない形で優勝を果たしました。

最終日の男子800mでは地元・環太平洋大の前田陽向選手や、日本学生個人選手権で2位に入った岡村颯太選手(鹿屋体育大)を中心にレースが展開されていくことが予想される中、山鹿快琉選手(育英大)が1年生ながら、終始中段から後方あたりで脚を溜める冷静なレース運びを見せ、大会新記録で見事に全国タイトルをつかみました。

本大会のトラック最終種目である男子4×400mリレーでは、大会3連覇を狙う絶対王者・東洋大が

種目	記録	氏名	所属	学年	備考
女子4×100mR	44. 31(予選1組)	柴藤 凜(2) 前田 美結子(3) 大林 璃音(2) 山形 愛羽(2)	福岡大		大会新記録 日本学生新記録
	44. 47(予選3組)	角 良子(4) 永石 小雪(4) 児島 柚月(3) 瀧野 未来(2)	立命館大		大会新記録 日本学生新記録
	44. 39(予選4組)	成田 朱里(2) 杉本 心結(1) 倉橋 美穂(4) 佐藤 葵唯(3)	青山学院大		大会新記録 日本学生新記録
女子5000m	15:30. 0	サラ ワンシル	大東文化大	3	大会新記録
女子10000m	31:48. 4				
女子10000mW	44:18. 0	柳井 綾音	立命館大	4	大会新記録
女子100mH	13. 15(準決勝1組) 13. 02(決勝)	島野 真生	日本女子体育大	M2	準決勝：大会新記録 決勝：日本学生新記録
	13. 23(準決勝3組) 13. 12(決勝)	本田 怜	順天堂大	M2	準決勝：大会タイ記録 決勝：日本学生新記録
男子800m	01:46. 8	山鹿 快琉	育英大	1	大会新記録
女子200m	23. 36	高橋 亜珠	筑波大	3	大会新記録
女子4×400mR	3:35. 41(決勝)	好井 愛結(2) 好井 万結(2) 栃尾 陽菜(4) 中尾 柚希(3)	園田学園大		大会新記録
	3:36. 28(決勝)	齋藤 朱里(1) 児島 柚月(3) 伊藤 真優(3) 瀧野 未来(2)	立命館大		大会新記録
男子4×400mR	03:03. 6	山崎 琉惟(3) 平川 慧(2) 白畑 健太郎(2) 甘浦 亮仁(4)	東洋大		大会新記録 日本学生新記録

終始先頭を譲ることのない圧巻の継走で優勝を果たし、25年ぶりに学生記録を更新しました。

フィールド種目では、女子ハンマー投において村上来花選手（九州共立大）が安定感のある貫録の投てきを披露し、追い上げるコンボン・ミンガモン選手（流通経済大）を振り切り、本大会の女子ハンマー投史上初4連覇を達成しました。男子三段跳では、昨年の覇者・安立雄斗選手（福岡大）が自身のセカンドベストを記録し、2連覇を果たしました。男子ハンマー投では、開催地である中国四国勢の活躍が目立ちました。優勝したのは昨年大会で4位入賞を果たした垂井祐志選手（四国学院大）でした。垂井選手は中国四国学生記録を更新する圧巻の投てきを見せま

した。2位には坂梨航琉選手（環太平洋大）、5位に秋山玲二郎選手（四国学院大）、6位にも喜多翼選手（四国大）が入賞し、地元開催ならではの声援を背に躍動しました。

学校対校では順天堂大が5連覇を果たし天皇賜盃を、筑波大が第89回大会以来となる秩父宮賜杯を獲得し、8つの大会新記録と昨年を上回る3つの日本学生新記録が飛び出し、好記録が連発した、大変盛り上がりを感じた大会となりました。こうして無事に本大会を開催することができたのも、関係各位のご支援、ご協力があったのことに、深く感謝する次第でございます。来年の第95回大会におきましてもご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。



学校対校の男子は78点を獲得した順天堂大が5年連続33回目の優勝を果たす



男子110mHで3度目の東京世界選手権参加標準記録突破となる13秒25（+0.8）を叩き出して連覇した阿部竜希（順天堂大、右）。総合優勝校の“MVP”に贈られるSMBC賞も受賞した。左は三井住友フィナンシャルグループ執行役員グループCSuOの高梨雅之氏

学校対校の女子は筑波大が71点で5年ぶり28度目の栄冠



女子200mは学生歴代2位の23秒40の自己記録を持つ高橋亜珠（筑波大、右）が初優勝。自己記録を0.04秒更新する23秒36（+0.1）をマークした。高梨氏（左）からSMBC賞が贈られた

男子4×400mRを3連覇した東洋大。左から走順に山崎琉惟、平川慧、白畑健太郎、甘浦亮。3分03秒64で日大が持っていた学生記録を25年ぶりに塗り替えた



予選で44秒39（学生歴代2位）をマークした青山学院大



予選、決勝とも歴史に残る激戦となった女子4×100mR。予選で44秒31の日本学生新記録を樹立した福岡大（右）が44秒44で優勝した

立命館大も予選で従来の学生記録を上回る44秒47の好記録



自身の学生記録を0.02秒塗り替える13秒02（-1.8）で女子100mHを2年ぶりに制した島野真生（日本女子体育大、左）。2位の本田怜（順天堂大、右）も13秒12の大会新の好走だった



女子ハンマー投は村上来花（九州共立大、中央）が64m85で前人未踏の4連覇を達成。2位のコンボン・ミンガモン（流通経済大、左）は学生歴代2位の64m79、3位の嶋本美海（九州共立大）も学生歴代4位、日本歴代10位となる64m01というハイレベルの投げ合いだった



早稲田大の山口智規が1500m (3分40秒46)、5000m (13分40秒06) ともに優勝。この種目の2冠は日本人初で、14年のエノック・オムワンバ (山梨学院大) 以来2人目となる



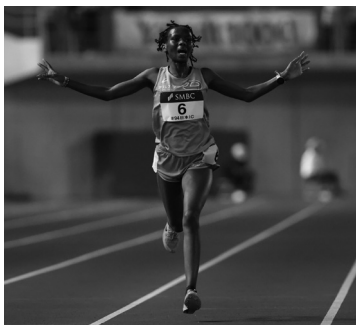
男子100mを10秒31 (-1.1) で制した木梨嘉紀 (筑波大)。岡山出身の木梨にとっては「地元優勝」となる



男子ハンマー投に優勝した垂井祐志 (四国学院大)。最終投で自己新の68m35を放ち、逆転の日本一だった。



全中、インターハイと連覇してきた女子砲丸投の奥山琴未 (岡山商科大) が地元で力投。15m35で初優勝を飾った



女子5000mはサラ・ワンジル (大東文化大) が15分30秒04と前回自身が作った大会記録を約5秒塗り替えて連覇。初日の10000m (31分48秒44) も大会新で、88回大会の佐藤成葉 (立命館大) 以来の2冠を達成した



学生歴代5位の4分14秒77で女子1500mを制した田島愛理 (順天堂大)。ラスト400mで一気に突き放した



女子4×400m Rを大会新となる3分35秒41で2年ぶりに制覇した園田学園大。アンカーの中尾柚希 (右端) が立命館大を逆転した

天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権成績

6月5日～8日 岡山県・JFE晴れの国スタジアム

男 子	
●100m	
決勝(-1.1)・6日	
①木梨嘉紀 (筑波大M2)	10.31
②愛宕 頼 (東海大4)	10.36
③関口裕太 (早稲田大3)	10.37
④井上直紀 (早稲田大4)	10.38
⑤灰玉平佑吾 (順天堂大M1)	10.43
⑥山崎一沙 (環太平洋大4)	10.49
⑦守 祐陽 (大東文化大4)	10.50
⑧大石凌功 (東洋大3)	10.55
●200m	
決勝(-0.3)・8日	
①佐々木清翔 (岩手大2)	20.90
②大橋明翔 (環太平洋大4)	20.90
③横山大空 (中京大4)	20.96
④田中 颯 (京都産業大4)	21.01
⑤濱松太郎 (法政大1)	21.04
⑥打田快生 (順天堂大3)	21.10
⑦水野琉之介 (早稲田大2)	21.18
⑧田中統也 (岡山商科大M1)	21.19
●400m	

決勝・6日	
①田邊 奨 (中央大2)	45.93
②森田陽樹 (早稲田大3)	46.20
③白畑健太郎 (東洋大2)	46.71
④菊田響生 (法政大1)	46.77
⑤山崎琉惟 (東洋大3)	46.96
⑥入月誠ノ介 (山梨学院大2)	47.01
⑦播磨仁太 (城西大2)	47.10
⑧吉川 峻 (筑波大M2)	途中棄権
●800m	
決勝・8日	
①山鹿快琉 (育英大1)	1.46.79
=大会新	
②岡村颯太 (鹿屋体育大3)	1.46.86
③長沢匠人 (日本体育大4)	1.47.40
④前田陽向 (環太平洋大4)	1.47.85
⑤塩原 匠 (順天堂大4)	1.48.26
⑥萬野七樹 (関西大2)	1.48.75
⑦水野瑛人 (中京大2)	1.48.76
⑧森玉鳳雅 (関西大3)	1.49.57
●1500m	
決勝・6日	
①山口智規 (早稲田大4)	3.40.46

②兵藤ジュダ (東海大4)	3.42.13
③大場崇義 (城西大2)	3.42.18
④大野聖登 (順天堂大3)	3.42.23
⑤中村晃斗 (志学館大3)	3.42.53
⑥鈴木太陽 (慶應義塾大4)	3.42.94
⑦矢口陽太 (東海大3)	3.43.29
⑧古倉ナヅ直希 (早稲田大2)	3.45.03
●5000m・7日	
①山口智規 (早稲田大4)	13.40.06
②ジョドラック・キップケメイ (日本大3)	13.42.32
③平島龍斗 (日本体育大4)	13.42.84
④中村晃斗 (志学館大3)	13.45.74
⑤小池莉希 (創価大3)	13.46.96
⑥黒木陽向 (創価大4)	13.47.07
⑦スティーン・レマイヤン (駿河台大3)	13.47.50
⑧池間凛斗 (順天堂大2)	13.49.16
●10000m・5日	
①ジョドラック・キップケメイ (日本大3)	28.07.94
②スティーン・レマイヤン (駿河台大3)	28.08.43
③黒田朝日 (青山学院大3)	28.09.18
④安島莉玖 (青山学院大2)	28.35.06
⑤石丸倬那 (創価大4)	28.47.86
⑥山口翔輝 (創価大2)	28.53.20

⑦川崎 颯 (筑波大3)	29.13.09
⑧遠藤大成 (青山学院大2)	29.13.59
●110mH	
決勝(+0.8)・7日	
①阿部竜希 (順天堂大4)	13.25
②似内陸斗 (岩手大4)	13.61
③樋口隼人 (筑波大4)	13.71
④小池 綾 (筑波大3)	13.73
⑤西 徹朗 (早稲田大4)	13.75
⑥松本 望 (法政大4)	13.78
⑦田原佳悟 (立命館大4)	13.89
⑧打田快生 (順天堂大3)	13.91
●400mH	
決勝・8日	
①小川大輝 (東洋大4)	48.95
②洲上翔太 (早稲田大2)	49.24
③盛岡優喜 (早稲田大4)	49.62
④下田隼人 (東洋大2)	49.67
⑤高橋遼将 (筑波大4)	49.68
⑥田原佳悟 (立命館大4)	50.03
⑦柳田聖人 (東洋大3)	50.19
⑧渡邊 脩 (日本体育大4)	50.37
●3000m S C・8日	

① 永原颯磨 (順天堂大2)	8. 35. 25
② 小野真忠 (東海大2)	8. 36. 75
③ ケブゲノ・ケネス (札幌学院大1)	8. 37. 23
④ ソロモン・ムトゥク (創価大2)	8. 38. 17
⑤ 辻 昂介 (順天堂大2)	8. 43. 04
⑥ 山崎 颯 (順天堂大4)	8. 43. 39
⑦ 山口月暉 (日本大4)	8. 43. 71
⑧ 緒方 快 (関東学院大4)	8. 48. 67
●10000mW・7日	
① 逢坂草太郎 (東洋大2)	39. 16. 14
② 原 圭佑 (京都大M2)	39. 26. 14
③ 金子 陸 (国士館大3)	39. 52. 47
④ 赤澤晃成 (山梨学院大3)	40. 18. 90
⑤ 近藤 岬 (明治大4)	40. 28. 50
⑥ 中村颯葉 (京都大3)	40. 34. 47
⑦ 下池将多郎 (順天堂大3)	40. 46. 04
⑧ 平賀文也 (明治国際大3)	40. 59. 86
●4×100mR	
決勝・6日	
① 中央大	38. 83
(檀上, 黒木, 植松, 三井)	
② 早稲田大	38. 84
(関口, 水野, 由井, 井上)	
③ 東洋大	38. 93
(柳田, 庭山, 成島, 城崎)	
④ 環太平洋大	39. 01
(村岡, 金川, 池下, 山崎)	
⑤ 順天堂大	39. 01
(高見, 打田, 小池, 阿部)	
⑥ 筑波大	39. 08
(木梨, 高橋, 久保井, 先本)	
⑦ 東海大	39. 17
(篠崎, 愛宕, 鈴木, 福澤)	
⑧ 慶應義塾大	39. 48
(林, 岩舩, 篠宮, 藤井)	
●4×400mR	
決勝・8日	
① 東洋大	3.03.64
=日本学生新, 大会新	
(山崎, 平川, 白畑, 甘浦)	
② 中央大	3.05.62
(田邊, 西山, 酒井, 庄範)	
③ 関西学院大	3.05.71
(妻鹿, 小幡, 山田, 谷生)	
④ 順天堂大	3.05.90
(富永, 大村, 池田, 岸)	
⑤ 明治大	3.06.03
(原田, 鷹羽, 川津, 古俣)	
⑥ 近畿大	3.06.34
(佐々木, 小島, 中垣内, 長蔵)	
⑦ 日本大	3.07.73
(矢ヶ部, 宮崎, 佐竹, 菊田)	
⑧ 九州共立大	3.09.86
(須山, 有田, 谷之口, 小田原)	
●走高跳・8日	
① 山口颯太 (順天堂大3)	2. 18
② 山中 駿 (京都大M1)	2. 15
③ 岡松大郎 (中京大3)	2. 15
④ 藤原虎太郎 (東京学芸大3)	2. 10
〃 チュクネレ・ジョエル優人 (筑波大3)	2. 10
〃 本田基偉 (岐阜大M2)	2. 10
〃 富田博史 (明治国際大M2)	2. 10
〃 須崎遥也 (慶應義塾大3)	2. 10
〃 宮田 風 (日本大M2)	2. 10
●棒高跳・6日	
① 北川 凱 (日本体育大3)	5. 40
② 篠塚浩斗 (育英大4)	5. 40
③ 松井楓雅 (日本体育大4)	5. 40
④ 松井駿斗 (筑波大M2)	5. 30
⑤ 原口篤志 (東海大4)	5. 30
⑥ 小暮七斗 (東海大4)	5. 20
⑦ 菅野航太 (日本体育大3)	5. 10
〃 鈴木悠聖 (育英大1)	5. 10
●走幅跳・6日	
① 北川 凱 (東海大4)	7. 81(+2.6)
② 大西勲也 (天理大2)	7. 74(±0)
③ 磯井亮輔 (筑波大3)	7. 68(+1.7)
④ 土屋拓人 (筑波大1)	7. 65(+0.9)
⑤ 新留 陸 (国際武道大M1)	7. 61(+0.1)
⑥ 高橋朝陽 (東海大3)	7. 56(+0.2)
⑦ 関根拓真 (国際武道大3)	7. 54(+1.0)
⑧ 中尾泰忠 (東海大3)	7. 52(+2.0)
●三段跳・7日	
① 安立雄斗 (福岡M2)	16. 57(+1.4)
② 宮尾真仁 (東洋大3)	16. 16(+0.5)
③ 金井晃希 (順天堂大3)	16. 14(+2.5)
④ 深井敦史 (九州共立大M2)	16. 02(+1.6)
⑤ 北川 凱 (東海大4)	15. 90(±0)
⑥ 城崎晃青 (東洋大4)	15. 85(+0.4)
⑦ 中田凱斗 (同志社大2)	15. 66(+0.4)
⑧ 高連太郎 (立命館大4)	15. 62(+0.9)
●砲丸投・8日	
① 山田暉斗 (法政大3)	17. 59
② アツオビン・ジェイソン (福岡M1)	17. 40

③ 泊 瑠平 (環太平洋大3)	16. 74
④ 黒田翔貴 (大阪体育大M2)	16. 24
⑤ 木幡駿平 (東海大3)	16. 10
⑥ 成田卓登 (東海大1)	16. 01
⑦ 仁木星之介 (四国大3)	15. 94
⑧ 柴田大二郎 (東海大3)	15. 90
●円盤投・7日	
① 中野真澄 (新潟医療福祉大M2)	53. 57
② 藤原孝史朗 (九州共立大M2)	53. 40
③ 山口翔輝夜 (筑波大3)	51. 15
④ 北村将也 (同志社大D3)	51. 13
⑤ 鴨澤青海 (東海大M2)	49. 64
⑥ 池川一哲 (順天堂大3)	49. 46
⑦ 遠山悠剛 (東海大4)	48. 24
⑧ 横尾 樹 (順天堂大3)	46. 79
●ハンマー投・6日	
① 垂井祐志 (四国学院大4)	68. 35
② 坂梨航琉 (環太平洋大M1)	67. 54
③ 山川凜心 (中京大M2)	66. 97
④ 迫田力哉 (日本大5)	65. 45
⑤ 秋山玲二郎 (四国学院大3)	64. 65
⑥ 喜多 翼 (四国大4)	64. 54
⑦ 執行大地 (筑波大M2)	63. 64
⑧ 中田アドリアン勝 (明治国際医療大4)	63. 56
●やり投・5日	
① 鈴木 凜 (九州共立大M1)	76. 58
② 竹村蒼汰 (中京大4)	72. 68
③ 山田航大 (東海大4)	71. 28
④ 西田龍司 (中京大4)	70. 95
⑤ 花田李樹 (中京大M1)	70. 77
⑥ 藤原理希 (岐阜協立大4)	70. 05
⑦ 須藤勇大 (大阪体育大4)	69. 19
⑧ 吉野孝圭 (九州共立大M1)	69. 04
●十種競技・6~7日	
① 松下 怜 (順天堂大3)	7508
② 山本湧斗 (大阪体育大3)	7319
③ 田中陽介 (大阪教育大M2)	7265
④ 橋本秀次朗 (国士館大M1)	7252
⑤ 新開俊智 (筑波大M2)	7195
⑥ 宮内夏葵 (日本体育大3)	7116
⑦ 谷崎 光 (中京大3)	7061
⑧ 前田和希 (国士館大3)	7058
◆対抗得点	
① 順天堂大	78点
② 東海大	64点
③ 早稲田大	61点
④ 東洋大	58点
⑤ 筑波大	49.5点
⑥ 中京大	38点
⑦ 環太平洋大	33.5点
⑧ 日本体育大	31.5点

女 子

●100m	
決勝(-1.0)・6日	
① 山形愛羽 (福岡大2)	11. 66
② 小針陽菜 (駿河台大1)	11. 69
③ 税田ジェニファー瑛美 (甲南大2)	11. 70
④ 柴藤 凛 (福岡大2)	11. 75
⑤ 佐藤葵唯 (青山学院大3)	11. 75
⑥ 永石小雪 (立命館大4)	11. 76
⑦ 奥野由萌 (甲南大4)	11. 77
⑧ 蔵重みう (甲南大3)	11. 85
●200m	
決勝(+0.1)・8日	
① 高橋亜珠 (筑波大3)	23. 36
=大会新	
② 児島柚月 (立命館大3)	23. 92
③ 永石小雪 (立命館大4)	24. 02
④ 佐藤葵唯 (青山学院大3)	24. 05
⑤ 前田美結子 (福岡大3)	24. 19
⑥ 杉本心結 (青山学院大1)	24. 38
⑦ 佐藤志保里 (順天堂大3)	29. 56
⑧ 税田ジェニファー瑛美 (甲南大2)	32. 63
●400m	
決勝・6日	
① フロレス・アリエ (日本体育大3)	53. 43
② 寺本 葵 (天理大4)	53. 55
③ 児島柚月 (立命館大3)	53. 78
④ 中尾柚希 (園田学園大3)	53. 98
⑤ 佐藤志保里 (順天堂大3)	54. 48
⑥ 上島周子 (早稲田大3)	54. 69
⑦ 柝尾陽菜 (園田学園大4)	54. 84
⑧ 瀬田陽菜 (青山学院大2)	55. 86
●800m	
決勝・8日	
① 森 千莉 (至学館大2)	2. 05. 51
② 西田有里 (立命館大2)	2. 05. 70
③ 勝くるみ (筑波大3)	2. 06. 31
④ 長谷川麻央 (京都教育大4)	2. 06. 38
⑤ 松尾愛利紗 (京都教育大2)	2. 07. 78
⑥ 仲子綾乃 (慶應義塾大4)	2. 08. 23
⑦ 平野里歩 (環太平洋大2)	2. 10. 73
⑧ 亀井咲里 (京都教育大2)	2. 11. 29

●1500m	
決勝・6日	
① 田島愛理 (順天堂大3)	4. 14. 77
② 長谷川麻央 (京都教育大4)	4. 19. 44
③ 木下紗那 (中央大4)	4. 19. 83
④ 尾崎真衣 (京都教育大3)	4. 20. 55
⑤ 小松夕夏 (筑波大4)	4. 20. 60
⑥ 森 千莉 (至学館大2)	4. 20. 99
⑦ 相場菜奈 (大東文化大3)	4. 21. 16
⑧ 太田垣楓華 (園田学園大3)	4. 21. 21
●5000m・7日	
① サラ・ワンジル (大東文化大3)	15. 30. 04
=大会新	
② デイジー・ジェロップ (城西国際大1)	15. 39. 52
③ 田島愛理 (順天堂大3)	15. 57. 14
④ 今西紗世 (帝京科学大1)	15. 57. 52
⑤ 太田咲雪 (立命館大3)	15. 58. 80
⑥ 石松愛未加 (名城大4)	16. 00. 62
⑦ 村山愛美沙 (帝京科学大3)	16. 02. 35
⑧ 白川朝陽 (筑波大2)	16. 03. 46
●100mH	
決勝(-1.8)・7日	
① 島野真生 (日本女子体育大M2)	13. 02
=日本学生新	
② 本田 怜 (順天堂大M2)	13. 12
以上大会新	
③ 高橋亜珠 (筑波大3)	13. 35
④ 福井有香 (立命館大2)	13. 50
⑤ 星場麗羽 (天理大4)	13. 50
⑥ 安井麻里花 (青山学院大4)	13. 56
⑦ 高見冬羽 (福岡大4)	13. 57
⑧ 高寄桃花 (東京学芸大4)	13. 77
●400mH	
決勝・8日	
① 瀧野未来 (立命館大2)	57. 22
② 新戸怜音 (尚美学園大4)	57. 62
③ 千葉史織 (早稲田大2)	57. 74
④ 小笠原光咲 (福岡大3)	58. 12
⑤ 益子芽里 (中央大4)	58. 51
⑥ 平木 陽 (大阪成蹊大3)	58. 62
⑦ タネル舞瑠乃 (東京学芸大4)	58. 80
⑧ 福岡梓音 (福岡大1)	60. 19
●3000m S.C.・8日	
① 山下彩菜 (大阪学院大4)	9. 57. 70
② 小松夕夏 (筑波大4)	10. 02. 76
③ 川瀬真由 (大東文化大4)	10. 05. 81
④ 山田春佳 (大東文化大4)	10. 31. 63
⑤ 富田紗帆 (順天堂大1)	10. 36. 19
⑥ 小松めい (白鷗大2)	10. 39. 12
⑦ 道田衣舞 (東京女子体育大3)	10. 39. 98
⑧ 瀬戸悠理 (拓殖大2)	10. 40. 73
●10000mW・6日	
① 柳井綾音 (立命館大4)	44. 18. 02
=大会新	
② 石田さつき (武蔵小女子大3)	46. 14. 57
③ 中島橙子 (早稲田大2)	46. 19. 75
④ 斉藤芽音 (九州共立大4)	46. 53. 09
⑤ 奥野 紗 (関西大1)	46. 57. 21
⑥ 中村綾花 (日本体育大4)	46. 58. 86
⑦ 藤田真美加 (早稲田大4)	47. 06. 79
⑧ 杉村 舞 (大阪大M2)	47. 15. 23
●4×100mR	
決勝・6日	
① 福岡大	44. 44
(柴藤, 前田, 大林, 山形)	
② 青山学院大	44. 50
(成田, 杉本, 倉橋, 佐藤)	
③ 立命館大	44. 96
(瀧野, 永石, 児島, 福井)	
④ 東京女子体育大	45. 31
(佐伯, 飯田, 宮阪, 三島)	
⑤ 日本女子体育大	45. 50
(島野, 山崎, 倉地, 内山)	
⑥ 順天堂大	45. 56
(佐藤剛, 佐藤志, 小寺, 本田)	
⑦ 園田学園大	45. 65
(田中, 浅田, 内藤, 村田)	
甲南大	途中棄権
(蔵重, 千葉, 奥野, 税田)	
●4×400mR	
決勝・8日	
① 園田学園大	3. 35. 41
(好井愛, 好井万, 柝尾, 中尾)	
② 立命館大	3. 36. 28
(齋藤, 児島, 伊藤, 瀧野)	
以上大会新	
③ 青山学院大	3. 38. 87
(菊地, 谷口, 井谷, 瀬田)	
④ 福岡大	3. 39. 55
(小笠原, 長町, 福岡, 加来)	
⑤ 駿河台大	3. 40. 67
(宮地, 小針, 佐野, 奥山)	
⑥ 筑波大	3. 42. 56
(森, 勝, 前田, 高橋)	

⑦ 大阪成蹊大	3. 42. 87
(中島, 武田, 平木, 吉野)	
⑧ 甲南大	3. 43. 95
(坂本, 蔵重, 麻生, 千葉)	
●走高跳・6日	
① 伊藤 楓 (日本体育大4)	1. 79
② 矢野夏希 (早稲田大3)	1. 79
③ 佐藤安里紗 (四国大3)	1. 76
④ 谷口愛弥子 (筑波大2)	1. 73
〃 江角菜子 (福岡大1)	1. 73
⑥ 森崎優希 (日本女子体育大2)	1. 73
⑦ 和田桃李 (日本女子体育大3)	1. 70
〃 川邊美奈 (順天堂大4)	1. 70
●棒高跳・8日	
① 佐々木琳音 (日本体育大4)	4. 10
② 小林美月 (日本体育大3)	4. 10
③ 岡田莉歩 (日本体育大2)	4. 00
④ 村田蒼生 (筑波大3)	3. 90
⑤ 若林人生 (福岡大4)	3. 80
⑥ 松井愛果 (大阪教育大1)	3. 80
⑦ 相原ほのか (筑波大4)	3. 80
〃 須崎心優 (中京大4)	3. 80
●走幅跳・7日	
① 木村美海 (四国大M3)	6. 42(-0.9)
② 近藤いおん (日本大1)	6. 37(-0.9)
③ 小針陽菜 (駿河台大1)	6. 37(-0.2)
④ 橋本詩音 (筑波大1)	6. 23(+0.3)
⑤ 松村琴都 (筑波大2)	6. 12(+0.9)
⑥ 釣本陽香 (横浜国立大2)	6. 09(+1.0)
⑦ 中尾優花 (福岡大4)	6. 00(+0.3)
⑧ 馬場彩香 (埼玉大4)	5. 99(-0.4)
●三段跳・8日	
① 大塚葉月 (青山学院大4)	13. 13(+0.7)
② 廣瀬桃奈 (園田学園大3)	13. 04(+0.3)
③ 山崎リリヤ (順天堂大1)	13. 01(+1.8)
④ 釣本陽香 (横浜国立大2)	12. 85(+0.9)
⑤ 三橋小桃 (環太平洋大1)	12. 70(+0.4)
⑥ 菅野未久瑠 (創設大3)	12. 69(+0.2)
⑦ 橋本詩音 (筑波大1)	12. 69(+1.0)
⑧ 土屋美潤 (日本体育大1)	12. 54(+1.1)
●砲丸投・8日	
① 奥山琴未 (岡山商科大3)	15. 35
② 村瀬にこ (九州共立大3)	15. 13
③ 中原 鈴 (大阪体育大3)	14. 67
④ 坂ちほる (大阪体育大1)	14. 63
⑤ 吉成真由 (東京女子体育大4)	14. 53
⑥ 山田彩夏 (順天堂大4)	14. 44
⑦ 三反田理央 (鹿屋体育大4)	14. 38
⑧ 吉沢花菜 (日本体育大3)	14. 31
●円盤投・6日	
① 友利晟司 (九州共立大3)	47. 38
② 廣井 楓 (鹿屋体育大4)	47. 03
③ 阪本海月華 (日本体育大3)	45. 32
④ 四役ひかり (順天堂大D2)	45. 01
⑤ 世古櫻紗 (国士館大1)	44. 90
⑥ 外間結希乃 (国士館大3)	44. 62
⑦ 桑島弥々 (九州共立大4)	44. 58
⑧ 坂井美藍 (順天堂大M2)	43. 81
●ハンマー投・6日	
① 村上花来 (九州共立大4)	64. 85
② コソボ・ミンガモン (流通経済大4)	64. 79
③ 嶋本美海 (九州共立大2)	64. 01
④ 中嶋日向子 (中京大M1)	60. 15
⑤ 勝治玲海 (九州共立大M2)	57. 40
⑥ 川島 空 (大阪体育大3)	57. 27
⑦ 三村啓恵 (立命館大3)	56. 25
⑧ 有波姫妃 (筑波大4)	55. 04
●やり投・5日	
① 倉田紗優加 (慶應義塾大3)	57. 20
② 辻萌々子 (九州共立大4)	55. 70
③ 村上碧海 (日本体育大4)	55. 68
④ 篠田佳奈 (京都大M1)	53. 49
⑤ 山崎絢音 (明治国際医療大3)	51. 86
⑥ 曾野 雅 (国士館大2)	51. 73
⑦ 櫻井希美 (中京大2)	51. 58
⑧ 川合小想 (大阪体育大4)	51. 58
●七種競技・7~8日	
① 中尾日香 (筑波大3)	5330
② 飯屋愛優 (日本体育大1)	5306
③ 下元香濃 (東京学芸大2)	5250
④ 片野坂唯月 (中京大3)	5211
⑤ 高寄桃花 (東京学芸大4)	5129
⑥ 谷 青夏 (中京大3)	5066
⑦ 金子美月 (中京大1)	5058
⑧ 上野山真白 (九州共立大3)	5054
◆対抗得点	
① 筑波大	71点
② 立命館大	69点
③ 日本体育大	61点
④ 順天堂大	55.5点
⑤ 福岡大	48.5点
⑥ 九州共立大	43点
⑦ 青山学院大	37点
⑧ 大東文化大	35点

【大会報告】 FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン=ルール)

陸上競技日本代表チーム監督 米田 勝朗（名城大）

1. 大会概要

開催期間：2025年7月21日（月）～7月27日（日）
開催地・会場：ドイツ・ボフム（ロールハイデシュ
タディオン）ほか

チーム編成：男子選手28名 女子選手19名 役員
16名

2. 総括

本大会の陸上競技における日本チームは、金5・
銀3・銅3（計11個）のメダルを獲得し、入賞（4
～8位）は14に達した。メダル獲得数においては
国別1位であった。特にロード種目では、男子ハーフマラソン個人の大会新記
録、男子／女子ハーフマラソン団体、男
子20km競歩団体で金メダルを獲得し、
チーム力が顕著に表れた。トラックでは
男子110mハードルで金、男子100mで
銅、フィールドでは男子走幅跳で銀を獲
得し、短距離・障害・跳躍においても存
在感を示した。

3. メダル獲得一覧（表1参照）

4. 入賞（4～8位／表2参照）

5. 所感・今後の課題（監督所見）

（1）ロード種目の強化

ハーフマラソン男女団体金と競歩の
男子団体金は、選手層の厚みと補完性の
高さを示す成果であった。今後も学生長
距離の育成連携（高校・大学・実業団）
を一層推進し、世界大会でも再現性のあ
る勝ち方を確立することが望まれる。

（2）短距離・ハードルの継続強化

男子110mハードルの金、男子100m
の銅はスピード領域の国際競争力向上
を裏づけた。スタート反応・中間疾走・
技術の微差を詰め、個人とリレーの双方
で取りこぼしを防ぐことが必要である。

（3）跳躍・投てきの底上げ

男子走幅跳で銀、その他の種目でも
決勝進出が複数見られた。フィジカル強

化と技術指標の継続モニタリングにより、8位入賞
からメダル圏内へのジャンプアップを促していき
たい。

（4）チームマネジメント

連戦環境下での体調管理・栄養・リカバリー体
制は概ね機能した。一方で、競技間の移動やスケ
ジュール最適化において小規模な改善余地が示唆さ
れた。しかしながら、我々ではどうにもできないこと
もあるので、さまざまな状況に応じて臨機応変に対
応していく必要がある。

■表1 メダル獲得一覧

色	種目	氏名／チーム	記録
金	男子ハーフマラソン（個人）	工藤 慎作（早稲田大学）	1:02:29（大会新記録）
金	男子110mH	阿部 竜希（順天堂大学）	13.47（-0.3）
金	男子ハーフマラソン（団体）	工藤・上原・馬場	3:07:52
金	男子20km競歩（団体）	土屋・原・吉迫	4:03:45
金	女子ハーフマラソン（団体）	土屋・野田・前田	3:39:32
銀	男子20km競歩（個人）	土屋 温希（立命館大学）	1:20:08
銀	男子走幅跳	藤原 孝輝（東洋大学）	8.00（-0.8）
銀	女子ハーフマラソン（個人）	土屋 舞琴（立命館大学）	1:12:58
銅	男子100m	柳田 大輝（東洋大学）	10.23（-0.7）
銅	男子ハーフマラソン（個人）	上原 琉翔（國學院大学）	1:02:39
銅	女子ハーフマラソン（個人）	野田 真理耶（大東文化大学）	1:13:16

■表2 入賞一覧（4～8位）

順位	種目	氏名	記録
4位	男子400mH	高橋 遼将（法政大学）	49.60
4位	男子ハーフマラソン（個人）	馬場 賢人（立教大学）	1:02:44
4位	男子20km競歩（個人）	原 圭佑（京都大学）	1:20:26
4位	女子やり投	村上 碧海（日本体育大学）	56.28
4位	女子10000m	細見 芽生（名城大学）	32:01.91（PB）
4位	女子ハーフマラソン（個人）	前田 彩花（関西大学）	1:13:18
6位	男子100m	大石 凌功（東洋大学）	10.44（-0.7）
6位	男子400mH	淵上 翔太（早稲田大学）	50.45
7位	男子3000mSC	佐々木 哲（早稲田大学）	8:41.53
7位	男子110mH	樋口 隼人（筑波大学）	13.90（-0.3）
7位	男子走高跳	山中 駿（京都大学）	2.17（SB）
7位	男子三段跳	安立 雄斗（福岡大学）	16.16（+1.3）
7位	女子100mH	島野 真生（日本女子体育大学）	13.17（+0.1）
8位	男子400m	平川 慧（東洋大学）	46.68



男子ハーフマラソンでは上原琉翔（國學院大）も1時間2分39秒の3位に入り、ダブルメダルを獲得



ハーフマラソンは団体男女制覇を達成。ロードの強さを世界に示した
〔写真/日本学連〕



女子ハーフマラソンも2つのメダルをゲット。土屋舞琴（立命館大、右）が1時間12分58秒で銀、野田真理耶（大東文化大）は1時間13分16秒の銅メダルを手にした



男子ハーフマラソン大会で金メダルを手にした工藤慎作（早稲田大）。1時間2分29秒は大会新記録で、日本勢の金メダルは2019年ナポリの相澤晃（東洋大、現・旭化成）以来となる



1時間20分08秒で男子20km競歩銀メダルに輝いた土屋温希（立命館大）



土屋（左）に続いて原圭佑（京都大、中央）も4位に入賞、吉迫大成（東京学芸大）が12位に入り、男子20km競歩で2大会ぶり金メダルを獲得



男子110mHを13秒47(−0.3)で制した阿部竜希(順天堂大)。日本勢として前回大会の豊田兼(慶應義塾大)に続いてこの種目連覇を達成した



男子走幅跳の藤原孝輝(東洋大)は1回目に8m00(−0.8)をジャンプ。9cm差で優勝こそ逃したが、銀メダルを獲得。19年の橋岡優輝(金/日大、現・富士通)以来のメダルとなった



男子100mで銅メダルに輝いた柳田大輝(東洋大)。日本勢では13年銀の山縣亮太(慶應義塾大)以来、12年ぶりに学生最速を決めるレースで表彰台に立った

【大会報告】

2025オールスターナイト陸上 (秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会)

副幹事長 桑原 悠真

1. 大会名：2025オールスターナイト陸上
(秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会)

2. 大会期日：2025年8月9日(土)

3. 場 所：神奈川県・レモンガススタジアム平塚

4. 学生選手団役員

監 督	山下 誠
男子コーチ	黒須 雅弘
女子コーチ	小倉 幸雄
男子主将	愛宕 頼
女子主将	村上 来花
マネージャー	桑原 悠真

5. 大会総括

2025年8月9日(土)、今年もレモンガススタジアム平塚を舞台に、2025オールスターナイト陸上(秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会)が開催されました。

日本グランプリシリーズに参画して3年目となる今年は、7月のFISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)に出場した選手や、9月に控えた東京世界選手権の代表入りを狙う選手など、学生と実業団のトップ選手が集結し、注目度の高い大会となりました。

女子三段跳では高島真織子選手(九電工)が、追い風参考ながら日本記録を上回る14m25で優勝。公認でも日本歴代3位となる13m94をマークし、大会新記録を樹立しました。また、男子400mハードルでは筒江海斗選手(スポーツテクノ和広)が48秒98の大会新記録で優勝し、男子400mでは今泉堅貴選手(内田洋行AC)が吉津拓歩選手(ミキハウス)との同タイム着差ありという激戦を制して、こちらも大会新記録で優勝しました。

学生チームは、男女800mと女子ハンマー投の3種目で表彰台を独占するなど、必死に実業団チームに食いつきましたが、対抗得点では実業団チームが217点、学生チームが165点で、実業団チームが56回目の優勝を飾りました。

個人表彰としては、男子最優秀選手に筒江選手、女

子最優秀選手に高島選手が選ばれました。観客の皆様様の投票によって選ばれるMIP賞には今泉選手と高島選手、そして敢闘賞には今泉選手と、女子100mを大会新記録で制した井戸アビゲイル風果選手(東邦銀行)、女子100mハードルで世界選手権参加標準記録を上回る走りを見せた中島ひとみ選手(長谷川体育施設)の3名が選ばれました。

今年も大会を無事に終了することができましたのは、ご後援をはじめ多くのご支援をいただいている平塚市の皆様や、運営協力をいただいた一般財団法人神奈川県陸上競技協会の皆様、その他関係各位のご協力があったことと深く感謝いたします。この歴史ある大会を来年以降もより良い大会とすべく精進してまいりますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

女子三段跳は高島真織子(九電工)がV。3回目に追い風参考ながら日本記録を上回る14m25(+2.5)をマークし、公認では13m94(+1.6)の大会新。女子最優秀選手に選出された





男子400mHは簡江海斗（スポーツテクノ和広、右）が48秒98の大会新で制覇。男子MVPに輝く



女子100mHは中島ひとみ（長谷川体育施設、左）が東京世界選手権参加標準記録を突破する12秒71（+1.1）で優勝し、敢闘賞を受賞。右は参加標準にあと0.01秒と迫った2位の福部真子（日本建設工業）、中央は13秒08で学生トップの3位に入った島野真生（日本女子体育大）



女子100mは井戸アビゲイル風果（東邦銀行）を11秒37（+1.0）で優勝。敢闘賞を受賞した



大接戦の男子400m。45秒68の同記録・大会新ながら着差ありで、今泉堅貴（内田洋行A.C.、左）が吉津拓歩（ミキハウス）を抑えて優勝した



男女混合4×400mRは実業団が3分19秒88の大会新で制す。学生は3分20秒22で一歩及ばず。写真は実業団の1走・吉津拓歩（ミキハウス）から2走・稲岡真由（KAGOTANI）へ、学生の1走・白畑健太郎（東洋大）から2走・中尾柚希（園田学園大）へのバトンパス



800mは男女ともに学生が表彰台を独占。男子(左)は岡村颯太(鹿屋体大、左端)が1分49秒10、女子は森千莉(至学館大、右から2人目)が2分06秒55で制した



女子ハンマー投はコンボン・ミンガモン(流通経済大)が62m61でV。2位、3位に九州共立大の村上来花と嶋本美海が続き、表彰台独占を果たす



男子100mは柳田大輝(東洋大、右から2人目)が10秒11(+0.5)が快勝

2025オールスターナイト陸上(秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会)

8月9日(土) 神奈川・レモンガスタジアム平塚

*=対抗選手

男子

●100m(+0.5)

- ①柳田大輝(東洋大) 10.11
②小池祐貴(住友電工)* 10.21
③多田修平(住友電工)* 10.22
④木梨嘉紀(筑波大)* 10.22
⑤関口裕太(早稲田大)* 10.24
⑥鈴木涼太(スズキ) 10.24
⑦愛宕 頼(東海大)* 10.25
⑧大上直起(青森競技力本部)* 10.31

●400m

- ①今泉賢吾(内田洋行A C)* 45.68
②吉津拓歩(ミキハウス)* 45.68
以上大会新

- ③白畑健太郎(東洋大)* 46.11
④菊田響生(法政大)* 46.78
⑤森田陽樹(早稲田大)* 47.12
⑥森 真聡(サンベルクス)* 47.32
⑦播磨仁太(城西大) 47.59

●800m

- ①岡村颯太(鹿屋体育大)* 1.49.10
②長沢匠人(日本体育大)* 1.49.45
③盛耕太郎(東海学園大)* 1.49.69
④高橋竜平(THE ONE)* 1.50.76
⑤山崎優希(KAGOTANI)* 1.54.34
松本純弥(成洋産業)* 棄権

●110mH(+1.0)

- ①高山峻野(ゼンリン)* 13.36
②石川周平(富士通)* 13.60
③藤井亮太(鳥取県スポ協)* 13.64
④西 徹朗(早稲田大)* 13.76
⑤打田快生(順天堂大)* 13.81
⑥田原佳祐(立命館大)* 13.84
古谷新太(三重教員A C) 棄権

●400mH

- ①岡江海斗(スポーツテック和広)* 48.98
=大会新
②山内大夢(東邦銀行)* 49.18
③豊田将樹(富士通)* 49.77
④山下隼人(東洋大)* 50.14
⑤森高颯治朗(KAGOTANI) 50.91
⑥山科真之介(神戸大)* 50.94
盛岡優喜(早稲田大)* 棄権

●棒高跳

- ①石丸楓太(Glanz AC)* 5.30
②篠塚浩汰(育英大)* 5.30

- ③松井楓雅(日本体育大)* 5.30
④北田琉偉(日本体育大)* 5.00
石川拓磨(東京海上日動C S)* 記録なし

- 江島雅紀(富士通)* 記録なし
原口篤志(東大阪大) 棄権

●走幅跳

- ①橋岡優輝(富士通)* 8.08(+2.6)
公7.89(-0.1)
②山川夏輝(Team SSP) 7.69(+0.8)
③小田大樹(ヤマダホールディングス)* 7.58(+1.5)

- ④磯井亮輔(筑波大)* 7.55(+1.6)
⑤北川 凱(東海大)* 7.53(-0.1)
⑥大西勲也(天理大)* 7.51(+1.3)
⑦津波響樹(大塚製薬)* 7.50(+1.4)

●円盤投

- ①幸長慎一(四国大職)* 58.70
②山下航生(HIMARAYA)* 56.73
③北原博企(新潟アルビレックスR C)* 56.34
④中町真澄(新潟医療福祉大)* 55.38
⑤藤原孝史朗(九州共立大)* 53.42
⑥安藤 夢(つくばツインビクス) 53.31

- ⑦山口翔輝夜(筑波大)* 52.03
●やり投

- ①巖 優作(山陽特殊製鋼)* 77.71
②相原大聖(OniGO)* 76.35
③小椋健司(エイジェック)* 74.86
④比嘉 遥(フクモト工業) 71.93
⑤山田航大(東海大)* 70.18
⑥西田龍司(中京大)* 69.98
⑦竹村蒼汰(中京大)* 66.15
⑧山田隼人(日吉) 59.32

●男子総合

- ◆実業団:111点 ②学生:79点

女子

- 100m(+1.0)
①井戸アビゲイル風果(東邦銀行)* 11.37
=大会新

- ②御家瀬緑(住友電工)* 11.50
=大会タイ

- ③壹岐あいこ(大阪ガス) 11.62
④蔵重みう(甲南大)* 11.69
⑤杉本心結(青山学院大) 11.76

- ⑥奥野由萌(甲南大)* 11.78
⑦佐藤葵唯(青山学院大)* 11.80
⑧高橋明日香(ジーケーライン)* 13.36

●400m

- ①久保山晴菜(今村病院)* 53.71
②寺本 葵(天理大)* 53.91
③岩田優奈(スズキ)* 54.37
④中尾祐希(園田学園大)* 54.38
⑤稲岡真由(KAGOTANI)* 55.03
⑥上島周子(早稲田大)* 55.75
⑦遠山早織(愛知アスリート)* 58.03

●800m

- ①森 千莉(至学館大)* 2.06.55
②西田有里(立命館大)* 2.06.74
③長島結衣(順天堂大)* 2.08.03
④原 華澄(deep Japan)* 2.08.34
⑤渡部鈴夏(若谷産業)* 2.08.41
⑥中村美宇(博電エンジニアリング)* 2.08.88

●100mH(+1.1)

- ①中島ひとみ(長谷川体育施設)* 12.71
②福部真子(日本建設工業)* 12.74
③島野真生(日本女子体育大)* 13.08
④本田 怜(順天堂大)* 13.12
⑤金井まると(C Y L) 13.27
⑥鈴木美帆(長谷川体育施設)* 13.33
⑦星場麗羽(天理大)* 13.42

●400mH

- ①南澤明音(松本土建)* 57.95
②イブラヒム愛紗(成洋産業)* 57.99
③新戸怜音(尚美学園大)* 59.03
④大久保光(ファンアンドランA C)* 59.37
⑤松岡萌絵(スズキ) 59.57
平木 陽(大阪成蹊大)* 途中棄権
千葉史織(早稲田大)* 棄権

●走高跳

- ①高橋 渚(センコー)* 1.85
②津田シェリアイ(築地銀だこ)* 1.85
③森崎優希(日本女子体育大) 1.82
④矢野夏希(早稲田大)* 1.76
⑤青山夏実(ダイテックス)* 1.73
⑥石岡柚季(日本女子体育大職) 1.70
⑦佐藤安里紗(四国大)* 1.70
⑧伊藤 楓(日本体育大)* 1.70

●三段跳

- ①高島真織子(九電工)* 14.25(+2.5)
=大会新

- 公13.94(+1.6)

- ②船田茜理(ニコニコのり)* 13.62(+1.5)
=大会新

- ③森本麻里子(オリコ)* 12.92(+0.3)
④齊藤萌乃(埼玉陸協) 12.81(+1.8)
⑤大塚葉月(青山学院大)* 12.77(+2.6)
公12.30(+0.7)

- ⑥廣瀬桃奈(園田学園大)* 12.60(+3.1)
公12.56(+1.3)

- ⑦菅野未久瑠(武蔵川女子大) 12.43(+1.4)
⑧三橋小桜(環太平洋大)* 12.10(+2.3)

●砲丸投

- ①大迫晴香(染めQ)* 15.71
②尾山和華(今村病院)* 15.39
③奥山琴未(岡山商科大)* 15.39
④村瀬にこ(九州共立大)* 15.06
⑤吉沢花菜(日本体育大) 14.11
⑥中原 鈴(大阪体育大)* 13.85
⑦松下ちひろ(筑波大塚特支職)* 13.76
⑧菊池聖奈(熊五郎) 13.66

●円盤投

- ①郡菜々佳(新潟アルビレックスRC) 57.21
②齋藤真希(太平電業) 54.04
③川口紅音(ウィザース) 51.31
④辻川美乃利(内田洋行A C) 50.93
⑤山本実果(コンドートック) 49.73

●ハンマー投

- ①コンボン・ミンガモン(流通経済大)* 62.61
②村上来花(九州共立大)* 61.67
③嶋本美海(九州共立大)* 61.66
④小館充華(染めQ)* 61.34
⑤藤本咲良(コンドートック)* 59.56
⑥エバサカ・テレサ(KAGOTANI)* 59.44
⑦中嶋日向子(中京大) 57.15
⑧佐野陽菜(福岡大) 54.39

◆女子総合

- ①実業団:106点 ②学生:86点

男女混合

- 4×400m R
①実業団 3.19.88
(古津、稲岡、今泉、久保山) =大会新

- ②学生 3.20.22
(白畑、中尾、菊田、寺本)

◆男女総合

- ①実業団:217点 ②学生:165点

【会議報告】

第74回理事会

1. 開催された日時

令和7年6月5日(月)12時00分～14時08分まで

2. 開催された方法

JFE晴れの国スタジアム4階 大会役員室

3. 理事総数及び定足数

現在数22名、定足数12名

4. 出席理事数：20名

理事：秋元 恵美、有吉 正博、小倉 幸雄、
片平 誠人、苅部 俊二、蒲原 一之、
北井 敏雄、工藤 洋治、黒須 雅弘、
障子 恵、関根 春幸、大後 栄治、
鶴崎 健一、永井 純、長澤 光雄、
日隈 広至、広川龍太郎、福島 洋樹、
安井 年文、山下 誠

監事：細萱 智大、山本 俊樹

5. 議題

【協議事項】

- 第1号議案 令和6年度事業報告及び決算について
- 第2号議案 定款および規程改訂について
- 第3号議案 令和7年度常任幹事の承認
- 第4号議案 令和7年度普通会员について
- 第5号議案 その他

【報告事項】

- ①前回理事会以降の会務の報告
- ②2025WRk競技会における競技運営監督者の資格について_0514
- ③北海道ICにおけるハンマー投負傷事故について
- ④2026年度、日本インカレ10000m 10000mWの分離開催について
- ⑤能登駅伝について(大森北信越学連会長より挨拶)
- ⑥全日本大学駅伝/GPS装着の件
(テレビ朝日担当者より説明)
- ⑦その他

6. 議事の経過およびその結果

- (1) 定足数の確認
- (2) 議長および議事録署名人の選出
- (3) 議案の審議および議決結果等

【協議事項】

- 第3号議案 令和7年度常任幹事の承認について
日本インカレの準備の関係で3号議案を最初に協

議することとした。

永井専務理事から資料により新任の日本学連常任幹事の紹介、提案があった。

氏名：露木 彰映(つゆき しょうえい)

大学：明治大学 政治経済学部 経済学科

氏名：八馬 瑚々美(はちま ここみ)

大学：日本大学経済学部産業経営学科

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第1号議案 令和6年度事業報告及び決算について
永井純専務理事より事業報告について資料に基づき説明があった。

次に事業報告を受け、令和6年度収支決算について大西事務局長より資料に基づき決算関係資料について説明があった。

◆貸借対照表について

【資産の部】

<流動資産>

85,713,718円

<固定資産>

基本財産 35,000,000円

特定資産：特定の目的のために保有する資産

70,250,000円 対前年比+5,131,000-増

資産合計は191,019,718円 対前年比5,662,335-増

【負債の部】負債合計15,254,473円

正味財産合計は175,765,245円

対前年比+4,669,411円(=本年度事業活動収支黒字額)

◆正味財産増減計算書について

・経常収益及び経常費用について説明

○事業費と管理費の構成

事業費は内閣府に申請している配賦基準に基づいて一般管理費に計上している費用を事業費へ一定の割合で配賦している。

(概要) 1. 事業活動収入 134,582,865円

対前年比+13,924,112円

2. 事業活動支出 129,913,454円

対前年比+6,250,409円

※2024年度の事業活動収支 4,669,411円の黒字

※管理費(法人会計) 対前年比+951,217円増

※事業費+管理費の経常費用は、129,913,454円

対前年比6,250,409円増。

◆正味財産増減計算書内訳表について

- ・正味財産増減計算書内訳表は、令和6年度の公益目的事業＝公1事業（競技会）、公2事業（育成）、公3事業（調査研究）と法人会計（管理費）のそれぞれ各事業の収支内訳を示している。

- ・令和年度の公益目的事業会計の収支（公1＋公2＋公3＋共通）

経常収益＝115,680,454円

経常費用＝123,277,333円

▲7,596,879円

公益目的事業は赤字でなければならない考え方のとおり赤字を計上。

引き続き事業報告及び収支決算の内容について、細営監事より監査報告があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案 定款および規程改訂について

大西事務局長から定款および規程の改定について説明、提案があった。

資料（会員の種類）第6条（1）正会員

正会員の定数は、定款に定めるところにより、4事業年度に1度見直すこととなっている。

昨年、正会員の定数を見直す予定だったが、この定数の見直しについては、定款改定が必要であるとの指摘があったことから、今年度の定時社員総会での定款改定の承認に向け、まずは理事会に諮りたい。

定款変更の承認を得たのち、来年度令和8年度の運用に向け、12月の理事会において各地区学連の新しい定数を提案できるよう準備を進めたい。

（基本財産）第41条

別表1が「会員に関する規程」に移ることから別表2を別表1に修正

（事業報告及び決算）第44条

損益計算書の名称が法律の改正により正味財産増減計算書から活動計算書に名称変更となる。

別表2基本財産の表について、別表1に修正。表中の「財産の種別」について、「秩父宮妃記念基金」は定期預金とし秩父宮妃記念基金は預金の名称とする。

資料3、会員に関する規程改定について

定款にある正会員の見直し制度が「会員に関する規程」へ移動することから定数の見直しは理事会の承認案件となる。令和7年度12月の理事会にて普通会员の集計により地区学連の定数見直しを行うこととしたい。

資料4、文書管理規程の改定について

役員による文書業務執行までの手続きが明確になっていないとの監督官庁からの指摘があり、文書発行の決済手続きを規程上明記することとしたい。

第7条、8条、9条は運用済みであるが今回規程化することにより、業務の環境を整える。

別表1の保存期間は手元に参考として保持していたが、規程として明確にすることとした。

資料5、補助金支給に関する規程

前回の内閣府立ち入り検査の際、地区学連等に支払っている「支払負担金」の根拠となっているものが整備がされていないことから今回規程として新設。

資料6、旅費の支給に関する規程改定について

（1）国内出張旅費

ホテル予算10000円はホテル代高騰の環境下であることから12000円へ値上げ。

定時社員総会開催時の理事・監事は日当の支給対応としたい。※内閣府から、定時社員総会における理事・監事の出席は正会員とは区別するよう指導があった。

（2）オンライン会議通信費

通信費500円/1日 → 1回 へと文言修正。

資料7、委員会規程について

第4条の委員の選任について、現在強化委員会は16名～34名のところ29名＋地区学連ヘッドコーチとなっており、上限の34名をオーバーしていることから、追記として（地区学連ヘッドコーチ部会の8名は数に含まない）としたい。

資料8、取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程について

2024年1月より電子帳簿保存法がスタートしたことによる、中辻会計士の助言により必要な規程を

新設。

資料2～8について審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案 令和7年度普通会員について

永井専務理事から資料に基づき4月末時点での普通会員数について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案 その他

①永井専務理事より、4/28開催の理事会で承認されたWUGのスタッフのうち、短距離担当の土江氏(東洋大学)が、その後辞退することとなり、代わりに遠藤俊典氏(青山学院大)を推薦したい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

②2025年度北日本インカレ、西日本インカレ優勝者のC資格の取り扱いに関する要望書について
福島理事より資料に基づき要望書の説明があった。本年、日本ICはイレギュラーで6月開催となり、北、西インカレによるC資格の適用が不可となった。よって来年の大会が例年の9月開催に戻った暁には本年開催の北、西インカレによるC資格について柔軟な対応をしてほしい。

・山下強化委員長よりC資格については以前から運営上の課題から、優勝すれば無条件とするだけでなく記録による制限も必要との意見があることを承知おきいただきたい。

・工藤常務理事より、2024年度の大会においては、要望されている組み合わせ(C資格は各校2名までOK)は認められていたので、元に戻る形となる。

この議題については、開催日程が確定後、専務理事、競技委員会、強化委員会、総務委員会などの基幹メンバーにおいて、再度検討することとした。

【報告事項】

①関根競技委員長より日本陸連から発出された文書「WRk競技会に於ける競技運営監督者について」資料に基づき説明があった。

文書の趣旨は、各競技会でWRkの大会を開催する場合は、ブロンズレフェリーを委嘱すること。日本の場合ブロンズレフェリーは約500名なる予定。各主催者でブロンズレフェリーの名簿により審判長を依頼するなどの対応が必要になる。

②永井専務理事より資料に基づき3月8日開催の第71回理事会以降の会務報告がなされた。

・富士山女子駅伝におけるフジテレビ及び特別協賛のスズキの対応について説明があった。

・出雲駅伝に対するフジテレビの対応について説明があった。今後、出雲市の対応を注視していきたい。

・WUGについて、JOCからの情報について現状報告があった。

③北海道学連広川理事より北海道インカレにおけるハンマー投負傷事故について報告があり、再発防止も含めた説明があった。

④山下強化委員長及び大後理事より2026年度以降の日本インカレにおける10000mと10000mWの分離開催について説明があった。2026年の日本ICは、9月初旬の開催を検討しているが、暑熱対策、安全対策の観点から分離開催について強化委員会内で数回の検討ミーティングを行った。10000mについては4月に開催したい。日本学生個人選手権がWUGの選考会を兼ね4月に開催される場合は個人選手権にて実施、通常通り6月に開催される場合は、4月のアシックスチャレンジまたは関西学連/実業団のミックスの大会等によって対応する可能性。競歩は試合数を減らしたくないことから、引き続き検討が必要。

⑤能登駅伝について、資料に基づき大森北信越学連会長から開催に向けた協力依頼があった。

能登半島復興の象徴のためのイベントとしてぜひ学生駅伝を開催したい。チームへのおもてなしができるようになったときに開催したい。開催時期は現状未定。

⑥全日本大学駅伝/GPSタスキへの装着について(テレビ朝日担当者より説明)

永井専務理事よりEXPO駅伝でABC朝日放送が利用したこともあり、良い機能であることから全日本大学駅伝でも導入を計画している旨説明。実行委員会では導入する方向で了承を得ている。

続いてテレビ朝日の井上氏から資料とGPSの試作品を提示しながら説明があった。GPSをタスキに装着することは多くのメリットもあるがバッテリーの大きさなどの課題もあり、引き続きチームの監督には丁寧な説明を行い、また試走してもらうなど準備を進めることとした。

その他報告事項

広川理事より報告、5 / 6 北海道学連競技会の女子4 × 100 m リレーにおいて替え玉事件が起こった。北海道学連内で嚴重注意など処分をした。Web

サイトにて学校名を伏せ公表した。

以上をもって議案の審議等を終了したので、14時08分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料	「定款」改訂について																								
<div>現 行</div> <div>第3章 会 員</div> <div>(法人の構成員)</div> <div>第5条 この法人は、この法人の事業に賛同する個人又は団体であって、次条の規定によりこの法人の会員となった個人又は団体をもって構成する。</div> <div>(会員の種類)</div> <div>第6条 この法人の会員は、次のとおりとする。</div> <div>(1) 正 会 員 地区学生陸上競技連盟（以下、「地区学連」という。）の会員であって、<u>別表1</u>の定数の範囲内で地区学連から推薦される者及び学識経験を有する者で、この法人の目的に賛同する者であって、理事会の承認を受けた者</div> <div>(2) 普通会員 地区学連の会員（学生登録者）で、この法人の目的に賛同する者</div> <div>(3) 名誉会員 この法人に対し特に功労のあった者で、社員総会で推薦された者</div> <div>(4) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、かつ、事業に賛助する個人又は団体</div> <div>第11章 資産及び会計</div> <div>(基本財産)</div> <div>第41条 別表2の財産は、公益目的事業を行うために不可欠な財産であり、この法人の基本財産とする。</div> <div>2 前項の財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、処分するときは、あらかじめ理事会及び社員総会の承認を要する。</div> <div>(事業報告及び決算)</div> <div>第44条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。</div> <div>(1) 事業報告</div> <div>(2) 事業報告の附属明細書</div> <div>(3) 貸借対照表</div> <div>(4) 損益計算書（<u>正味財産増減計算書</u>）</div> <div>(5) 貸借対照表及び損益計算書（<u>正味財産増減計算書</u>）の附属明細書</div> <div>(6) 財産目録</div> <div>別表1 正会員の定数 ※2020年4月1日より（2019年12月7日改定）</div> <table><tr><td>地区学連</td><td>定数（名）</td></tr><tr><td>北海道</td><td>6</td></tr><tr><td>東北</td><td>7</td></tr><tr><td>関東</td><td>23</td></tr><tr><td>北信越</td><td>7</td></tr><tr><td>東海</td><td>9</td></tr><tr><td>関西</td><td>13</td></tr><tr><td>中国四国</td><td>8</td></tr><tr><td>九州</td><td>8</td></tr><tr><td>地区学連推薦合計</td><td>81</td></tr><tr><td>学識経験者</td><td>54</td></tr><tr><td>総計</td><td>135</td></tr></table> <div>(1) 地区学連の定数の算出方法は、まず、各地区に5ずつ割当て、次に残りの41を過去3事業年度の普通会員の数を基にドント方式で割当てるものとする。</div> <div>(2) 定数の見直しは、設立の登記の日以降、4事業年度に1度行うものとする。</div> <div>別表2 基本財産</div> <div>(財産の種類) (預金先等) (金額)</div> <div>定期預金 三井住友銀行 25,000,000円</div> <div>秩父宮妃記念基金 三井住友銀行 10,000,000円</div>	地区学連	定数（名）	北海道	6	東北	7	関東	23	北信越	7	東海	9	関西	13	中国四国	8	九州	8	地区学連推薦合計	81	学識経験者	54	総計	135	<div>改訂案</div> <div>第3章 会 員</div> <div>(法人の構成員)</div> <div>第5条 この法人は、この法人の事業に賛同する個人又は団体であって、次条の規定によりこの法人の会員となった個人又は団体をもって構成する。</div> <div>(会員の種類)</div> <div>第6条 この法人の会員は、次のとおりとする。</div> <div>(1) 正 会 員 地区学生陸上競技連盟（以下、「地区学連」という。）の会員であって、<u>別途理事会で定める</u>定数の範囲内で地区学連から推薦される者及び学識経験を有する者で、この法人の目的に賛同する者であって、理事会の承認を受けた者</div> <div>(2) 普通会員 地区学連の会員（学生登録者）で、この法人の目的に賛同する者</div> <div>(3) 名誉会員 この法人に対し特に功労のあった者で、社員総会で推薦された者</div> <div>(4) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、かつ、事業に賛助する個人又は団体</div> <div>第11章 資産及び会計</div> <div>(基本財産)</div> <div>第41条 別表1の財産は、公益目的事業を行うために不可欠な財産であり、この法人の基本財産とする。</div> <div>2 前項の財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、処分するときは、あらかじめ理事会及び社員総会の承認を要する。</div> <div>(事業報告及び決算)</div> <div>第44条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。</div> <div>(1) 事業報告</div> <div>(2) 事業報告の附属明細書</div> <div>(3) 貸借対照表</div> <div>(4) 損益計算書（<u>活動計算書</u>）</div> <div>(5) 貸借対照表及び損益計算書（<u>活動計算書</u>）の附属明細書</div> <div>(6) 財産目録</div> <div>附則</div> <div>2025年6月21日改定（令和7年年6月21日定時社員総会決議）</div> <div>正会員の定数表は「会員に関する規程」へ移動</div> <div>※次回の定数見直しは2025年12月とする。</div> <div>別表1 基本財産</div> <div>(財産の種類) (預金先等) (金額)</div> <div>定期預金 三井住友銀行 25,000,000円</div> <div>定期預金 三井住友銀行 10,000,000円（名称：秩父宮妃記念基金）</div>
地区学連	定数（名）																								
北海道	6																								
東北	7																								
関東	23																								
北信越	7																								
東海	9																								
関西	13																								
中国四国	8																								
九州	8																								
地区学連推薦合計	81																								
学識経験者	54																								
総計	135																								

現 行	改訂案																								
<p>(正会員) 第2条 地区学生陸上競技連盟（以下、「地区学連」という。）の会員であって、定款に定める別表1の定数の範囲内で地区学連から推薦される者及びこの法人の事業遂行に関し学識経験を有する者で、この法人の目的に賛同する者は、理事会の承認を得て正会員となることができる。</p> <p>正会員の定数 定款 別表1として掲載</p>	<p>(正会員) 第2条 地区学生陸上競技連盟（以下、「地区学連」という。）の会員であって、理事会で定める定数の範囲内で地区学連から推薦される者及びこの法人の事業遂行に関し学識経験を有する者で、この法人の目的に賛同する者は、理事会の承認を得て正会員となることができる。</p> <p>2. 正会員の定数は以下の表のとおりとする。(2019年12月7日改定)</p> <table><tr><th>地区学連</th><th>定数(名)</th></tr><tr><td>北海道</td><td>6</td></tr><tr><td>東北</td><td>7</td></tr><tr><td>関東</td><td>23</td></tr><tr><td>北信越</td><td>7</td></tr><tr><td>東海</td><td>9</td></tr><tr><td>関西</td><td>13</td></tr><tr><td>中国四国</td><td>8</td></tr><tr><td>九州</td><td>8</td></tr><tr><td>地区学連推薦合計</td><td>81</td></tr><tr><td>学識経験者</td><td>54</td></tr><tr><td>総計</td><td>135</td></tr></table> <p>(1) 地区学連の定数の算出方法は、まず、各地区に5ずつ割当て、次に残りの41を過去3事業年度の普通会員の数を基にドント方式で割当てるものとする。</p> <p>(2) 定数の見直しは、設立の登記の日以降、4事業年度に1度行うものとする。</p> <p>附則：この規程は、2025年（令和7年）6月21日より施行する。</p>	地区学連	定数(名)	北海道	6	東北	7	関東	23	北信越	7	東海	9	関西	13	中国四国	8	九州	8	地区学連推薦合計	81	学識経験者	54	総計	135
地区学連	定数(名)																								
北海道	6																								
東北	7																								
関東	23																								
北信越	7																								
東海	9																								
関西	13																								
中国四国	8																								
九州	8																								
地区学連推薦合計	81																								
学識経験者	54																								
総計	135																								

保存期間	分類	文書の種類	根拠法令他
永久	法人	重要な承認、届出、報告書等に関する文書	
		行政庁等による検査または命令に関する文書	
		登記に関する文書	
		定款、規程等に関する文書	
		寄付金に関する情報	
		効力の永続する契約に関する文書	
	人事労務	重要な人事に関する文書	
		職員との協定書	
10年	法人	職員の任免、報酬等に関する文書	
		行政庁等からの重要な文書	
		理事会・評議員会等の開催に関する文書	
		役員の就任、報酬等に関する文書	
5年	法人	理事会・評議員会等の議事録	一般法10年
		各種委員会に関する文書	
		稟議書（永久とされる文書を除く）	
	財産契約	資金調達、設備投資の見込書	
		役員等名簿、報酬等の支給基準	一般法5年
		税務に関する文書	税法5年
		軽微な契約に関する文書	
	人事労務	役職員の採用・退職・賞罰に関する文書	労基法5年
		雇用保険被保険者資格取得等確認通知書等	労基法4年
		労働者名簿、採用・解雇・退職に関する書類	労基法3年
3年	人事労務	有期契約職員の名簿・履歴書等	労基法3年
		職員名簿、履歴書、住民票記載事項証明	労基法3年
		雇用保険被保険者関係届出事務等処理簿	労基法2年
		賃金台帳	労基法3年
		労災保険に関する書類	労災法3年
		労働保険の徴収・納付等の書類	徴収法3年
		健康保険・厚生年金保険に関する書類	健保法2年
		雇用保険に関する書類	雇保法2年
		出勤簿、休暇・遅刻・欠勤・早退届	労災法3年
		業務遂行に必要なその他の軽微な文書	
1年	法人		
	人事労務	住所・姓名変更届	

(目的)

第1条 この規程は、公益社団法人日本学生陸上競技連合（以下、「この法人」という。）における補助金の支給に関する事務の取扱いを定め、適正に補助金を支給し管理することを目的とする。

(支給対象)

第2条 本規程に基づきこの法人が補助金を支給する対象は、以下のとおりとする。

- (1) 日本インカレ運営における各地区学連
- (2) 出雲駅伝、全日本大学女子駅伝、全日本大学駅伝、運営における担当地区学連
- (3) この法人の年度事業計画に定める共催事業の主催者のうち専務理事の承認を得た者

(補助金の額)

第3条 補助金の額は、別表に定める記載額を上限とする。

(補助金支給計画)

第4条 補助金を支給しようとする事業等の計画は、実施計画及び補助金の金額決定資料について予め専務理事の承認を得なければならない。但し、年度初めの事業計画、事業予算計画において財務委員会、企画委員会、および理事会において承認されたものについてはこの限りではない。

2 この法人が主催する事業に運営協力する陸上競技協会等に対しては、運営協力金として別途計画する。

(補助金の支払事務)

第5条 補助金は支給対象団体からの依頼文書もしくは請求書により処理する。

- 2 補助金は、事業実施前又は事後に、銀行口座振込により支給する。
- 3 前項の支払いにあたり、事務局長は補助金を支給する事業の実施内容を確認し、支給する。

(委任)

第6条 その他この規程により難しい場合には、専務理事が決定する。

2 前条の場合において、専務理事は必要に応じて理事会で協議することができる。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会の決議による。

附則

この規程は、令和7年6月5日から施行する。(令和7年6月5日理事会決議)

別表			
区分	事業名	対象	上限額
主催競技会	日本インカレ	各地区学連	25万円
	出雲駅伝	中国四国学連	50万円
	全日本大学女子駅伝	東北学連	50万円
	全日本大学駅伝	東海学連	50万円
共催事業	北日本インカレ	主催学連	30万円
	西日本インカレ	主催学連	50万円
	日本陸上競技学会	日本陸上競技学会事務局	25万円

1. 最高支給限度額を定めたもので、予算額及び事業内容等を勘案して執行する。
2. 各都道府県陸上競技協会への運営協力金は協議調整の上、決定する。
3. 全日本大学女子駅伝、全日本大学駅伝における各チームへの強化費は主催者間で協議調整の上、決定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、電子計算機を使用して作成する国税関係帳簿書類の保存方法の特例に関する法律第7条に定められた電子取引の取引情報に係る電磁的記録の保存義務を履行するため、公益社団法人日本学生陸上競技連合（以下、「この法人」という。）において行った電子取引の取引情報に係る電磁的記録を適正に保存するために必要な事項を定め、これに基づき保存することを目的とする。

(適用範囲)

第2条 この規程は、この法人の全ての役員及び従業員（契約社員、パートタイマー及び派遣社員を含む。以下同じ。）に対して適用する。

(管理責任者)

第3条 この規程の管理責任者は、事務局長とする。

第2章 電子取引データの取扱い

(電子取引の範囲)

第4条 この法人における電子取引の範囲は以下に掲げる取引とする。

- 一 EDI取引（EDI：電子的に取引を行う仕組み）
- 二 電子メールを利用した見積書、請求書及び領収書等の授受
- 三 クラウドサービスを利用した見積書、契約書、請求書及び領収書等の授受

(取引データの保存)

第5条 取引先から受領した取引関係情報及び取引相手に提供した取引関係情報のうち、第6条に定めるデータについては、保存サーバ内に10年間保存する。

(対象となるデータ)

第6条 保存する取引関係情報は以下のとおりとする。

- 一 見積依頼情報
- 二 見積回答情報
- 三 確定注文情報
- 四 注文請け情報
- 五 納品情報
- 六 支払情報

(運用体制)

第7条 保存する取引関係情報の管理責任者は事務局長とする。

(訂正削除の原則禁止)

第8条 保存する取引関係情報の内容について、訂正及び削除をすることは原則禁止とする。

(訂正削除を行う場合)

第9条 業務処理上やむを得ない理由によって保存する取引関係情報を訂正または削除する場合は、経理担当者は「取引情報訂正・削除申請書」に以下の内容を記載の上、管理責任者へ提出すること。

- 一 申請日
 - 二 取引伝票番号
 - 三 取引件名
 - 四 取引先名
 - 五 訂正・削除日付
 - 六 訂正・削除内容
 - 七 訂正・削除理由
 - 八 処理担当者名
- 2 管理責任者は、「取引情報訂正・削除申請書」の提出を受けた場合は、正当な理由があると認める場合のみ承認する。
 - 3 管理責任者は、前項において承認した場合は、処理担当者に対して取引関係情報の訂正及び削除を指示する。
 - 4 処理担当者は、取引関係情報の訂正及び削除を行った場合は、当該取引関係情報に訂正・削除履歴がある旨の情報を付すとともに「取引情報訂正・削除完了報告書」を作成し、当該報告書を管理責任者に提出する。
 - 5 「取引情報訂正・削除申請書」及び「取引情報訂正・削除完了報告書」は、事後に訂正・削除履歴の確認作業が行えるよう整然とした形で、訂正・削除の対象となった取引データの保存期間が満了するまで保存する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、理事会の決議による。

附則

この規程は、2025年（令和7年）6月5日より施行する。（2025年6月5日理事会決議）

2025年5月17日、当連盟が主催する第74回北海道学生陸上競技対校選手権大会において、ハンマー投の公式練習中に、ネット裏で審判業務を行っていた学生へハンマーが衝突する事故が発生しました。これにより、本連盟加盟校の学生1名が負傷する事態となり、誠に申し訳なく、負傷した学生とその家族に謹んでお詫びを申し上げますとともに、負傷した生徒の一日も早い回復を心よりお祈り申し上げます。

また、当該学生ならびに保護者の方々をはじめ、多くの本連盟関係者に多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますこと、深くお詫び申し上げます。

1. 発生日時 2025年（令和7年）5月17日（土）10時05分ごろ
2. 発生場所 札幌円山競技場（北海道札幌市中央区宮ヶ丘3）
3. 事故概要 ハンマー投の公式練習中に選手が投げたハンマーが投擲サークル左サイドネットの右支柱にぶつかり、ネットの裏をすり抜けて、ネット後方で4×400mリレーの監察審判を行っていた学生の左大腿に衝突した。
4. 被害状況 負傷1名（左大腿の骨折）
5. 事故後の対応
 - ・試合担当の医務員が駆けつけ、担架に乗せ医務室へ運搬し、救急車で病院へ緊急搬送をした。
 - ・事故後、警察による現場検証を行い、事故原因等の調査は継続中である。
 - ・日本学生陸上競技連合、北海道を通して関係省庁への報告を行うとともに、指導を仰ぎながら各方面と連携して事故対応に努めている。
6. 原因究明と再発防止について
北海道学生陸上競技連盟関係者において、原因の究明と再発防止に尽くすべく、現在調整中である。

本件に関するお問い合わせ

北海道学生陸上競技連盟（ヘッドコーチ 大宮）電話011-387-3765

ホームページアドレス <https://sites.google.com/site/hokkaidogakuren2016/home>

月 日	行 事(報告内容)
3月 8日(土)	第71回理事会 於：新宿カンファレンスセンター
3月12日(水)	倫理委員会 ※オンライン会議
3月13日(木)	SMBC/金融経済プログラム(SMBC/プロボノ計画)打合せ ※オンライン会議
3月13日(木)	実業団・学生対抗陸上 運営会議 ※オンライン会議
3月13日(木)	WUG(ライン・ルール)選手メディカルチェック 於：JISS
3月15日(土)～3月16日(日)	第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 於：松江市
3月15日(土)～3月16日(日)	第19回日本学生競歩選手権大会 於：能美市
3月15日(土)～3月16日(日)	EXPO駅伝 於：大阪市
3月18日(火)	2024富士山女子駅伝 会計監査 於：日本学連事務局
3月19日(水)	2025富士山女子駅伝・フジTVミーティング ※オンライン会議
3月21日(金)	WUG(ライン・ルール)学連準備会議 ※オンライン会議
3月24日(月)	日本IC国立競技場利用に関する事務局ミーティング ※オンライン会議
3月26日(月)	日本IC日産スタジアム利用に関する打合せ ※横浜市/日産スタジアム
3月27日(木)	富士山女子駅伝実行委員会(2024大会最終) 於：富士市、オンライン会議併用
3月28日(金)	第1回アンチドーピング講習会 ※オンライン
3月28日(金)	令和7年度事業計画内閣府提出 ※オンライン
3月30日(日)	日本学生個人選手権EPプラン打ち合わせ会議 ※オンライン会議
4月 4日(金)	日本学生個人選手権番組編成会議 ※日本学連事務局/オンライン会議併用
4月 4日(金)	WUG(ライン・ルール)選手メディカルチェック 於：JISS
4月 7日(月)	WUG(ライン・ルール)選手メディカルチェック 於：JISS
4月 8日(火)	日本学生個人選手権表彰打合せ会議 ※日本学連事務局/オンライン会議併用
4月 9日(水)	第2回アンチドーピング講習会 ※オンライン
4月10日(木)	丸亀ハーフ/日本学生ハーフ事務局ミーティング ※オンライン会議
4月10日(木)	日本学生個人選手権主任者会議 於：横浜市/開港記念会館
4月11日(金)	第3回アンチドーピング講習会 ※オンライン
4月15日(火)	日本IC 下見 於：岡山市
4月15日(火)	2026年度日本IC 長距離種目分離開催に関するミーティング ※オンライン会議
4月17日(木)	日本学生個人選手権 報道担当者ミーティング ※オンライン会議
4月18日(金)	日本学生個人選手権 湘南ケーブルTVミーティング 於：平塚市
4月18日(金)	臨時理事会 ※オンライン会議
4月21日(月)	全日本大学駅伝準備会議 ※オンライン会議
4月23日(水)	丸亀ハーフ事務総長/日本学生ハーフ事務局ミーティング ※日本学連事務局
4月23日(水)	WUG(ライン・ルール)第2回JOC派遣説明会 ※オンライン会議
4月24日(木)～27日(日)	2025日本学生陸上個人選手権開催 於：平塚市
4月27日(日)	WUG(ライン・ルール)日本代表選手選考会議 ※グランドホテル神奈中/オンライン会議併用
4月28日(月)	理事会(WUG代表選手推薦) ※オンライン会議
5月 9日(金)	全日本大学駅伝小委員会・代表委員会 ※オンライン会議
5月 9日(金)	2025富士山女子駅伝・フジTVミーティング ※オンライン会議
5月13日(火)	総務委員会・日本IC ※日本学連事務局/オンライン会議併用
5月14日(水)	全日本大学女子駅伝実行委員会 ※仙台市/オンライン会議併用
5月15日(木)	2025年度マーケティング活動(株式会社明治/個人選手権終了挨拶/京橋)
5月16日(金)	出雲駅伝 実行委員会準備会議 於：日本学連事務局
5月16日(金)	財務委員会 ※オンライン会議
5月20日(火)	日本IC 番組編成作業 於：日本学連事務局
5月20日(火)	WUG基幹役員ミーティング ※オンライン会議
5月20日(火)	WUG(ライン・ルール)選手メディカルチェック 於：JISS
5月21日(水)	2026年度日本IC 長距離種目分離開催に関する報告ミーティング ※オンライン会議
5月21日(水)	日本IC 番組編成会議 於：日本学連事務局/オンライン会議併用
5月22日(木)	WUG(ライン・ルール)JOC臨時説明会 ※オンライン会議
5月22日(木)	2026年度日本IC 長距離種目分離開催に関するミーティング ※オンライン会議
5月22日(木)	WUG日本学連基幹役員臨時ミーティング ※オンライン会議
5月22日(木)	全日本大学女子駅伝事務局会議 於：日本学連事務局
5月23日(金)	WUG(ライン・ルール)JOC臨時説明会(2回目) ※オンライン会議
5月23日(金)	日本IC 準備会議 ※オンライン会議
5月24日(土)	日本IC 審判主任者会議 於：岡山市
5月26日(月)	令和6年度会計監査 於：日本学連事務局
5月27日(火)	2025年度マーケティング活動(ジールコミュニケーションズ日本IC準備)※オンライン会議
5月28日(水)	企画委員会準備ミーティング ※オンライン会議
5月28日(水)	WUG(ライン・ルール)選手メディカルチェック 於：JISS
5月29日(木)	WUG(ライン・ルール)選手メディカルチェック 於：JISS
5月29日(木)	能登駅伝計画策定ミーティング ※オンライン会議
5月29日(木)	企画委員会 ※オンライン会議
6月 2日(月)	全日本大学駅伝/シチズン企画提案準備会議 ※日本学連事務局
6月 2日(月)	2026年～マーケティング活動準備ミーティング
6月 5日(木)～8日(日)	日本IC開催 於：岡山市
6月 5日(木)	理事会 於：岡山市

【会議報告】

17回定時社員総会

1. 開催された日時

令和7年6月21日(土)14時05分から15時15分まで

2. 開催方法

Web会議システムによるオンライン会議

3. 正会員総数及び定数

現在数135名、定足数68名

4. 出席正会員数 118名

(本人出席)48名

(委任出席)70名

(欠席)17名

5. 議題

【決議事項】

第1号議案：令和6年度(第13期)収支決算承認の件

第2号議案：定款の改定について

【報告事項】

①令和6年度事業報告

②日本学生陸上競技連合の会務について

③その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長及び議事録署名人の選出

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

①令和6年度事業報告について

収支決算の審議の前に令和6年度事業報告について、永井純専務理事より実施した公益目的事業の一覧表について説明。公1(競技会)、公2(育成)、公3(調査研究)、法人管理/組織力管理の順にそれぞれ実施した事業の内容説明があった。

第1号議案 令和6年度(第13期)収支決算について、大西清司事務局長より財務諸表の説明があった。

貸借対照表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財産目録及び財務諸表の注記、付属明細書に関する説明ののち、山本監事より監査報告があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案 定款改訂について

大西事務局長から定款改定について提案があった。
【会員の種類】第6条(1)正会員

正会員地区学連卒の定数は、定款に定めるところにより、4事業年度に1度見直すこととなっている。

昨年、地区学連推薦の81名について、理事会において見直す予定であったが、そのためには定款改訂が必要であることが判明し、定時社員総会での定款改訂の承認に向け準備をしてきた。定款改訂の承認を得たのちは、令和8年度の運用に向け、12月の理事会において令和7年度の普通会員数を集計し、各地区学連の改訂された定数を提案できるよう準備を進めたい。

(基本財産)第41条

別表1「会員に関する規程」に移ることから別表2を別表1に修正。

(事業報告及び決算)第44条

損益計算書の名称が令和7年4月1日、法律の改正により「正味財産増減計算書」から「活動計算書」に名称変更となる。

別表に記載の基本財産について、表中の「財産の種類」に記載の「秩父宮妃記念基金」は「定期預金」に修正し、秩父宮妃記念基金は預金の名称として表記する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した。

【報告事項】

令和6年度日本学生陸上競技連合の会務について

永井純専務理事より報告。会務の具体的な内容については多方面にまたがるので今回は各委員会の役割に焦点をあてて説明。

本法人は役員(理事、監事)、学生幹事、事務局が日ごろの業務の遂行を担っている。学連活動は、学生競技者が高いパフォーマンスを発揮できる環境を提供することを基本とし、年間の事業計画に基づき、専門委員会の設置により、各委員が力を合わせて運営を支えている。本法人の活動を担う11の委員会の紹介、活動を説明、報告とした。

その他として、委員から選手強化の観点で、駅伝における放映権料の獲得の推進、重要性などの意見が

出された。

また、組織管理や日本インカレ等の事業を進める
上において、指導者の登録も必要性を感じていること

から引き続き総務委員会内で検討をしたいとの意見
が出された。

資料

公益社団法人日本学生陸上競技連合 2024年度(令和6年度)事業報告

【概要】

令和6年度、陸上競技界はパリ五輪での日本人選手の活躍が大きな話題となった。学生選手の活躍もあったが、世界のレベルが高くなる中では、育成期間としての学生陸上の重要性を感じる年でもあった。

各事業については、年度当初に立てた事業計画に沿って遂行し、6月に日本学生陸上競技個人選手権大会を開催、前年はWUG選考競技会として4月に開催したが、本年は6月に戻しての開催となった。

天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会(以下日本インカレ)は、昨年の熊谷スポーツ文化公園陸上競技場から川崎市のUvanceとどろきスタジアム by Fujitsuでの開催となった。9月19日からの実施となったため、暑熱対策面では少し緩和できたことなど比較的順調な運営ができた。記録もU20日本新記録、日本学生新記録、大会新記録など、好記録が続出する大会であった。等々力の競技場は今後サッカー専用スタジアムへ改修されるため、全国大会規模の陸上競技大会としては最後の競技会となった。

駅伝シーズンに入り、昨今の気温上昇傾向の環境においては、選手の安全管理が心配されるようになり、給水に関してそれぞれの大会で検討がなされた。緊急事態(走行困難な選手)の対応を明確にした運用を昨年の大会から導入したが、特に大きなトラブルもなく無事終了することができた。

2024年度は、オランダ/ナイメーヘン15kmロードレースへのフル代表派遣が5年ぶりに実現したことや日本学生ハーフマラソン選手権が立川市から丸亀市に移り、学生新記録など好成績が続出するなど、特筆すべき点も挙げられる。また、ワールドユニバーシティゲームズのない年であったこと、日本インカレが首都圏で開催された年であったことなど、事業を遂行する環境面では大きなストレスがかかることもなく、多くの関係者のご理解、ご協力をいただきながら順調に事業を終えることができた。

【公1-競技会】

今年度はWUGの開催がないため日本学生陸上競技個人選手権大会は通常開催の6月となった。当初、台湾の学生選抜チームが参加する予定であったが、急遽来日が中止となった。64回を迎えた実業団・学生対抗陸上競技大会は、7月20日に開催され、パリ五輪に出場する選手も迎え、中でも100mHの福田選手が日本新記録をマークするなど大変盛り上がった大会となった。

日本インカレは、93回大会となり、6年ぶりに川崎市の等々力陸上競技場で開催した。先にも述べたが、この競技場は今後サッカー専用スタジアムへ改修されるため、川崎市陸上競技協会の強い希望により、最後にふさわしい全国規模の陸上競技会として誘致していただいた。ロケーションが良いことも幸いし、入場者数も増え、大会も大変盛り上がる中、好記録も続出した。天皇賜盃は順天堂大学が、秩父宮妃杯は日本体育大学が獲得しそれぞれ4連覇を成し遂げた。

10月に入り、駅伝大会の幕開けとなる第36回出雲駅伝は、昨年に引き続きIVYリーグ選抜チームも招聘し、選抜された21チームで開催された。初出場の岡山大学をはじめ国立大学が4校出場するなど、関東勢が優勝を競う以外のところで話題性のある大会でもあった。結果は國學院大学が5年ぶり2度目の優勝に輝いた。

10月27日開催の第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は、昨年コース変更を行い2回目の開催となった。また、選手走行において、安全を脅かす事例が昨年あったことから、競技継続の判断など、安全管理の対策を十分加味した運営を行った。結果事故もなく無事終了したが、引き続き、安全対策において油断を怠らないよう安全第一の運営を確認した。結果は立命館大学が名城大学の8連覇を阻止し、9大会ぶりの11回目の優勝を果たした。

11月3日開催の第56回全日本大学駅伝対校選手権大会は、前日の豪雨による交通の混乱もあったが、当日は晴天にも恵まれ、全27チームが伊勢路を駆け抜けた。結果は國學院大学が初優勝。出雲駅伝に続き学生駅伝2冠を達成した。

学生駅伝全国大会の最後となる2024全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)は、12月30日に開催され、地元の理解や多くの関係者の努力によって盛況のうち無事終了することができた。結果は立命館大学が名城大学の7連覇を阻止し、7区間のうち4区間で区間賞を獲得、さらに大会新記録を樹立し、7年ぶり6回目の優勝を果たした。

2025年に入り、WUG開催年であることからロード種目の日本代表選手選考競技会として準備を進めた。2月2日に開催した第28回日本学生ハーフマラソン選手権は、昨年の立川市から丸亀市に移り、約300名のエントリーにより実施された。好記録を出しやすい大会として注目されている大会だが、その期待通り学生新記録の誕生、また自己新記録の続出する大会となった。WUGの選考においては、予定通り3名の日本代表選手を内定した。続く3月16日、松江レディースハーフマラソンの併催として第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会を実施し、男子同様3名の日本代表選手を内定した。また、同日に開催した全日本能美競歩/第19回日本学生20km競歩選手権も予定通り開催し、男子3名の日本代表選手を内定した。

【公2-育成】

長らく派遣を中止していたオランダ/ナイメーヘン15kmロードレースにおいて2019年以来5年ぶりにフル代表の派遣を実施し、アフリカのプログラマーに交じって好成績を上げることができた。

ドーピングコントロールテストに関しては、主催の陸上競技3大会と全日本大学女子駅伝対校選手権大会において実施した。近年、残念なことに留学生のドーピング違反が複数発覚し、JADAや日本陸連より指導の対象となった。この事案を受け、アウトリーチプログラムをさらに充実させるべく医事委員会において実学対抗陸上競技大会を除く2大会における企画や富士山女子駅伝の開会式後に選手、指導者を対象に講習会を行うなどの活動を実施した。

審判員育成については、B級審判の養成、資格取得については各地区学連の対応において実施した。

指導者会議については、本年度70回を数え、対面とオンラインを併用して実施した。テーマは「日本学連における今後の指導者施策」とし、内容は、日本陸連において、生徒児童が加入するクラブチームを立ち上げる際に、コーチ資格を持つ者の登録が義務化されたことなどを受け、各大学の指導者においてコーチ資格を持たない者が多くいると予想されることや昨今ではコーチ・指導者のモラル欠如に伴うトラブルも報告されていることから、今年度は、コーチ・指導者に焦点を当てて、大学指導者の在り方を検討する会議とした。

他の育成事業として、栄章贈与式(新記録章)、クロカン日本選手権(共催/福岡)、東京マラソンへの学生エリート、準エリート選手推薦を予定通り実施した。

【公3 - 調査研究】

調査研究事業においては、本年も toto 助成金を受領し、年3回の陸上競技研究(135～137号)を発行した。

共催事業として、第23回日本陸上競技学会が予定通り実施された。

テーマ:「陸上競技学における実践研究の促進」

期 日:2025年2月22日(土)、23日(日) 会 場:仙台大学

【法人管理部門】

令和6年6月8日の定時社員総会は、令和5年度の事業報告/収支決算および令和6年度、7年度の役員を承認する議題等で開催した。

令和6年度開催の理事会は、まず5月18日(事業報告が主な議題)、6月8日(役員改選)、7月29日(臨時理事会/2025主催競技会に関して)、8月28日(臨時理事会/競技会の不適正実施における処分)、9月19日(WUG選考要項等)、12月14日(令和7年度事業日程等)、令和7年1月16日(臨時理事会/WUG選考要項再検討)、3月8日(令和7年度事業計画等)以上計8回開催した。

恒例の第50回幹部役員研修会は1泊2日の日程で実施した。日本学連の事業遂行において、重要な役割を担う新学生幹部役員に対する研修となった。

【普通会員の登録数】

令和6年度、普通会員登録者数は19,901となった。令和5年度は19,500名であったことから、401名の増員となった。令和6年度予算では20,000名としていたのでわずかに届かなかった。コロナ以前にはまだ戻っていない状況であるが、少しずつ回復している結果となった。

(1) 公1<競技会>

No.	競技会	期 日	場 所	種目数	参加校・競技者数	備 考
1	2024日本学生陸上競技個人選手権大会	2024年 6月14日(金) ～16日(日)	レモンガススタジアム平塚 ＊ハンマー投げ/東海大学湘南校舎競技場	男子18 女子18	男:86校/477名 女:83校/519名	U20日本新(1) 大会新(6) スポーツ振興基金助成金事業
2	(2024オールスターナイト陸上) 秩父宮賜杯 第64回実業団・学生対抗陸上競技大会 (日本グランプリシリーズ/G2)	2024年 7月20日(土)	平塚市 レモンガススタジアム平塚	男子9 女子9	54名 54名 (オープン参加は含まず)	実業団213.5点男子108点女子105.5点 学生167.5点 男子84点女子83.5点 総合優勝チーム:秩父宮賜杯、 内閣総理大臣杯 男子優勝チーム:文部科学大臣杯 女子優勝チーム:厚生労働大臣杯
3	天皇賜盃 第93回日本学生陸上競技対校選手権大会	2024年 9月19日(木) ～22日(日)	神奈川県/Uvanceと どろきスタジアム by Fujitsu	男子22 女子22	127校…1061名 108校…873名	男子優勝校 順天堂大学(82点) 女子優勝校 日本体育大学(85.66点) U20日本新(2) 日本学生新(2)、大会新(7)
4	第36回 出雲全日本大学選抜駅伝競走	2024年 10月14日 (月/祝)	出雲市 45.1km 6区間		国内…20チーム 海外…1チーム (IVY)	優勝 國學院 2時間09分24秒 2位 駒澤大 2時間10分04秒 ※優勝チームには内閣総理大臣杯、文部科学大臣賞を授与
5	第42回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2024年 10月27日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内・25校+ 1チーム(東北選抜)	優勝 立命館大 2時間03分03秒(9大会ぶり11回目) 2位 大東大 2時間04分06秒 ※優勝チーム:文部科学大臣杯を授与
6	秩父宮賜杯 第56回全日本大学駅伝対校選手権大会	2024年 11月3日(日)	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間		国内・25校+ 2チーム(東海選抜/全 日本大学選抜)	優勝 國學院大 5時間9分56秒(4年連続16回目の優勝) 2位 駒澤大 5時間10分24秒 ※優勝チーム:秩父宮賜杯を授与
7	2024 全日本大学女子選抜駅伝競走	2024年 12月30日(月)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…22 単独チーム+全日 本大学選抜+静岡 県選抜)計2チーム	優勝 立命館大 2時間21分09秒 2位 大東文化大 2時間23分47秒 ※優勝チーム:文部科学大臣杯を授与
8	第28回 日本学生ハーフマラソン選手権大会 兼 FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) 日本代表選手選考競技会	2025年 22日(日)	丸亀市		エントリー:311名 完走:206名	優勝 工藤慎作(早稲田大) 1.00.06 2位 馬場賢人(立教大) 1.00.26 3位 上原琉翔(國學院大) 1.02.30
9	第19回 日本学生20km競歩選手権大会 兼 FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) 日本代表選手選考競技会	2025年 3月16日(日)	能美市		男/エントリー:53名 女/エントリー:32名	男子優勝 原 圭佑(京都市大) 1時間19分40秒 女子優勝 柳井綾音(立命館大) 1時間30分25秒
10	第28回 日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 兼 FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) 日本代表選手選考競技会	2025年 3月16日(日)	松江市		エントリー:60名 完走:38名	優勝 土屋舞琴(立命館大) 1:12:04 2位 野田真理耶(大東大) 1:12:20 3位 高橋 葵(城西大) 1:12:28
11	2024年日本学生記録年鑑の発行	2025年 3月29日発行			1000部発行 主催競技会の記録、2024年50傑、歴代10傑他	

(2) 公2＜育成＞

No.	競技会等	期 日	場 所	備 考
1	秩父宮賜杯 第77回西日本学生陸上競技対校 選手権大会	2024年 7月5日(金) ～7日(日)	岐阜メモリアルセンター 長良川競技場	日本学連共催。
2	第46回北日本学生陸上競技 対校選手権大会	2024年 8月12日(木) ～14日(土)	石川県西部緑地公園 陸上競技場	日本学連共催。
3	オランダ/ナイメーヘン15km ロードレース	2024年 11月17日(日)	オランダ/ ナイメーヘン	選手8名(男子4名、女子4名)スタッフ4名計12名 男子 青木瑠都(國學院大)4位 女子 小川 陽香5位
4	第108回 日本陸上競技選手権大会クロス カントリー競走(日本学連共催)	2025年 2月22日(土)	福岡市/ 海の中道海浜公園	男子最高:伊藤 蒼唯(駒沢大) 学生1位(連合杯獲得)※29分16秒(日本選手権4位) 女子最高:白川朝陽(筑波大大) 学生1位(連合杯獲得)※27分00秒(日本選手権10位)
5	第5回全国大学対校男女混合 駅伝競走大会	2025年 2月16日(土)	ヤンマースタジアム長 居/長居公園内コース	日本学連共催。21チーム参加 ①日体大 ②大東文化大学 ③順天堂大学
6	RUN as ONE東京マラソン 2025 準エリート(学生)	2025年 3月2日(日)	東京	東京マラソン財団へ推薦、準エリート及びエリート
7	日本学連米章贈与式/ 諸記録章(日本学生新記録)	2025年 3月8日(土)	東京/新宿(TKP)	【日本学生新記録章】 ①平林 清澄(國學院大)マラソン ②リチャード/エティエリ(東京国際大)ハー フマラソン ③4×100mR(早稲田大)大竹 春樹・千田 杜真寿 関口 裕太・ 井上 直紀 (女子)①本田 怜(順天堂大)100mH ②柳井綾音(立命館大)10000mW ③村上来花(九州共立大)ハンマー投げ ④サラ ワンシル(大東文化大学)5000m
8	第70回指導者会議	2025年 3月8日(土)	TKP新宿/ ZOOM 併催	テーマは「日本学連における今後の指導者施策」
9	大阪・関西万博開催記念 CAN EXPO EKIDEN2025 (日本学連・協力)	2025年 3月16日(日)	大阪市/ 万博記念公園～夢洲	実業団6チーム 学生8チーム オープン2チーム 優勝:トヨタ自動車 2位:富士通 3位:國學院大學
10	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
11	ドーピング・コントロール・ テスト	4回	各地	検査実施大会(日本学生個人、実業団・学生対抗、日本IC、全日本大学女子駅伝)
12	知っておきたい アンチ・ドーピ ングの知識2025発行	2025年 1月1日発行	日本学連 ホームページに公開	日本学連医事委員会編集

(3) 公3＜調査研究＞

No.	事 業	期日・回数	場 所	備 考
1	日本陸上競技学会共催(第23回)	2025年 2月22日(土)～23日(日)	仙台大学	日本学連共催 テーマ:陸上競技学における実践研究の促進
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年3回/135号～137号		(ISSN 0919-9918)日本学連調査研究委員会 2024/6/30、10/31 2025/2/28発行 ※スポーツ振興くじ助成金事業

(4) 法人管理部門＜組織力管理＞

No.	事 業	期間・回数等	摘 要
1	理事会の開催	8回	第64回(5月18日) 第65回(6月8日) 第66回(7月29日) 第67回(8月28日) 第68回(9月19日) 第69回(12月14日) 第70回(1月16日) 第71回(3月8日)
2	定時社員総会の開催	1回	第16回定時社員総会(6月8日)/R5年度事業報告、R6、7年度役員改選
3	企画委員会の開催	4回	定時理事会の設営(議題の検討)、執行業務の企画、立案
4	会員の入会受付	2024年度	正会員135名 普通会員(学生)19,901名 賛助会員の募集活動
5	公認競技会開催申請及び 記録公認申請	2024年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請 WRK 競技会開催受付/申請
6	会報の刊行	3回	各回1,000部(名誉会員、正会員、役員、委員会委員 賛助会員 地区学連加盟校に配布) 5月、10月、1月
7	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
8	2023 学生役員会議	2024年12月14日(土)	1回開催(新宿) 参加対象:各地区学連幹部学生役員
9	第50回学生幹部役員研修会	2025年3月7日(金) ～8日(土)	集合研修 参加対象:令和7年度各地区学連三役
10	マーケティング部会	随時	事業活性化に向けた事業収入の確保。協賛企業への戦略、立案の検討
11	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載(各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	59,789,801	81,840,136	△ 22,050,335
未収金	2,894,476	2,915,040	△ 20,564
仮払金	23,029,441	427,207	22,602,234
流動資産合計	85,713,718	85,182,383	531,335
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	25,000,000	25,000,000	0
秩父宮妃記念基金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	35,000,000	35,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	8,800,000	8,000,000	800,000
賞与引当資産	1,450,000	619,000	831,000
ユニバーシアード派遣事業積立資産	10,000,000	7,000,000	3,000,000
国際交流積立資産	8,000,000	8,000,000	0
競技会事業積立資産	32,000,000	32,000,000	0
世界大学クロスカントリー派遣積立資産	4,000,000	2,000,000	2,000,000
海外ロードレース遠征積立資産	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000
創立100周年積立資産	4,000,000	3,500,000	500,000
特定資産合計	70,250,000	65,119,000	5,131,000
(3) その他固定資産			
電話加入権	56,000	56,000	0
その他固定資産合計	56,000	56,000	0
固定資産合計	105,306,000	100,175,000	5,131,000
資産合計	191,019,718	185,357,383	5,662,335
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	772,789	962,441	△ 189,652
預り金	4,231,684	4,680,108	△ 448,424
賞与引当金	1,450,000	619,000	831,000
流動負債合計	6,454,473	6,261,549	192,924
2. 固定負債			
退職給付引当金	8,800,000	8,000,000	800,000
固定負債合計	8,800,000	8,000,000	800,000
負債合計	15,254,473	14,261,549	992,924
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	10,000,000	10,000,000	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	25,000,000	25,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	61,450,000	57,119,000	4,331,000
正味財産合計	175,765,245	171,095,834	4,669,411
負債及び正味財産合計	191,019,718	185,357,383	5,662,335

資料

正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	501	△ 501
基本財産受取利息	0	501	△ 501
特定資産運用益	88,022	1,970	86,052
特定資産受取利息	88,022	1,970	86,052
受取会費	38,388,800	37,693,000	695,800
正会員受取会費	675,000	675,000	0
普通会员受取会費	35,821,800	35,100,000	721,800
賛助会員受取会費	1,220,000	1,240,000	△ 20,000
陸上研究誌受取会費	672,000	678,000	△ 6,000
事業収益	77,694,957	66,720,558	10,974,399
受取協賛金	32,763,957	24,449,938	8,314,019
受取放映料	17,600,000	17,600,000	0
受取参加料	9,621,000	9,477,000	144,000
受取広告料	2,574,000	3,986,620	△ 1,412,620
入場料等売上	15,136,000	11,207,000	3,929,000
受取補助金等	5,613,000	5,569,000	44,000
受取助成金	5,563,000	5,319,000	244,000
受取補助金	50,000	250,000	△ 200,000
受取負担金	12,720,844	10,487,340	2,233,504
受取負担金	12,720,844	10,487,340	2,233,504
雑収益	77,242	186,384	△ 109,142
受取利息	37,805	576	37,229
雑収益	39,437	185,808	△ 146,371
経常収益計	134,582,865	120,658,753	13,924,112
(2) 経常費用			
事業費	123,277,333	117,978,141	5,299,192
給料手当	10,192,427	6,136,800	4,055,627
臨時雇賃金	655,200	675,600	△ 20,400
退職給付費用	640,000	480,000	160,000
賞与引当金繰入額	1,160,000	495,200	664,800
福利厚生費	1,919,132	1,265,031	654,101
会議費	3,475,605	3,567,626	△ 92,021
旅費交通費	40,911,546	42,665,147	△ 1,753,601
通信運搬費	2,455,673	3,020,776	△ 565,103
消耗品費	2,631,789	3,489,846	△ 858,057
備品費	193,961	437,136	△ 243,175
印刷製本費	8,898,406	8,847,505	50,901
光熱水料費	118,364	112,770	5,594
食糧費	3,660,380	3,477,496	182,884
賃借料	10,666,142	6,828,398	3,837,744
リース料	299,904	310,904	△ 11,000
諸謝金	828,000	1,830,050	△ 1,002,050
表彰費	1,507,181	1,537,789	△ 30,608

科 目	当年度	前年度	増 減
渉外費	50,595	65,797	△ 15,202
委託費	13,604,765	13,471,289	133,476
租税公課	1,563,824	2,375,120	△ 811,296
支払負担金	17,065,740	16,368,070	697,670
雑費	778,699	519,791	258,908
管理費	6,636,121	5,684,904	951,217
給料手当	2,548,106	1,534,200	1,013,906
臨時雇賃金	163,800	168,900	△ 5,100
退職給付費用	160,000	120,000	40,000
賞与引当金繰入額	290,000	123,800	166,200
福利厚生費	479,782	316,257	163,525
会議費	296,736	257,104	39,632
旅費交通費	231,532	239,559	△ 8,027
通信運搬費	580,468	517,205	63,263
消耗品費	8,400	6,542	1,858
備品費	118,879	228,129	△ 109,250
印刷製本費	252,990	282,444	△ 29,454
光熱水料費	118,366	112,770	5,596
賃借料	735,556	850,413	△ 114,857
リース料	74,976	77,726	△ 2,750
渉外費	33,921	62,561	△ 28,640
委託費	87,779	151,905	△ 64,126
租税公課	390,956	593,780	△ 202,824
雑費	63,874	41,609	22,265
経常費用計	129,913,454	123,663,045	6,250,409
評価損益等調整前当期経常増減額	4,669,411	△ 3,004,292	7,673,703
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,669,411	△ 3,004,292	7,673,703
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,669,411	△ 3,004,292	7,673,703
一般正味財産期首残高	161,095,834	164,100,126	△ 3,004,292
一般正味財産期末残高	165,765,245	161,095,834	4,669,411
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高	175,765,245	171,095,834	4,669,411

科 目	公益目的事業会計					法人会計	内部取引等 消去	合 計
	公1	公2	公3	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	44,011	44,011	44,011		88,022
特定資産受取利息	0	0	0	44,011	44,011	44,011		88,022
受取会費	0	0	672,000	18,858,400	19,530,400	18,858,400		38,388,800
正会員受取会費	0	0	0	337,500	337,500	337,500		675,000
普通会员受取会費	0	0	0	17,910,900	17,910,900	17,910,900		35,821,800
賛助会員受取会費	0	0	0	610,000	610,000	610,000		1,220,000
陸上研究誌受取会費	0	0	672,000	0	672,000	0		672,000
事業収益	75,494,957	2,200,000	0	0	77,694,957	0		77,694,957
受取協賛金	30,563,957	2,200,000	0	0	32,763,957	0		32,763,957
受取放映料	17,600,000	0	0	0	17,600,000	0		17,600,000
受取参加料	9,621,000	0	0	0	9,621,000	0		9,621,000
受取広告料	2,574,000	0	0	0	2,574,000	0		2,574,000
入場料等売上	15,136,000	0	0	0	15,136,000	0		15,136,000
受取補助金等	3,039,000	0	2,574,000	0	5,613,000	0		5,613,000
受取助成金	2,989,000	0	2,574,000	0	5,563,000	0		5,563,000
受取補助金	50,000	0	0	0	50,000	0		50,000
受取負担金	11,006,476	1,714,368	0	0	12,720,844	0		12,720,844
受取負担金	11,006,476	1,714,368	0	0	12,720,844	0		12,720,844
雑収益	26,430	0	0	50,812	77,242	0		77,242
受取利息	0	0	0	37,805	37,805	0		37,805
雑収益	26,430	0	0	13,007	39,437	0		39,437
経常収益計	89,566,863	3,914,368	3,246,000	18,953,223	115,680,454	18,902,411		134,582,865
(2) 経常費用								
事業費	101,357,920	15,645,273	6,274,140	0	123,277,333	0		123,277,333
給料手当	8,281,348	1,274,053	637,026	0	10,192,427	0		10,192,427
臨時雇賃金	532,350	81,900	40,950	0	655,200	0		655,200
退職給付費用	520,000	80,000	40,000	0	640,000	0		640,000
賞与引当金繰入額	942,500	145,000	72,500	0	1,160,000	0		1,160,000
福利厚生費	1,559,296	239,891	119,945	0	1,919,132	0		1,919,132
会議費	1,952,871	1,404,040	118,694	0	3,475,605	0		3,475,605
旅費交通費	35,642,468	5,230,490	38,588	0	40,911,546	0		40,911,546
通信運搬費	1,379,783	497,245	578,645	0	2,455,673	0		2,455,673
消耗品費	2,560,792	69,317	1,680	0	2,631,789	0		2,631,789
備品費	68,824	125,137	0	0	193,961	0		193,961
印刷製本費	7,258,050	68,997	1,571,359	0	8,898,406	0		8,898,406
光熱水料費	82,855	35,509	0	0	118,364	0		118,364
食糧費	3,660,380	0	0	0	3,660,380	0		3,660,380
賃借料	9,930,586	686,519	49,037	0	10,666,142	0		10,666,142
リース料	59,980	239,924	0	0	299,904	0		299,904
諸謝金	600,000	30,000	198,000	0	828,000	0		828,000
表彰費	1,374,466	132,715	0	0	1,507,181	0		1,507,181
渉外費	29,551	14,261	6,783	0	50,595	0		50,595
委託費	10,065,605	993,805	2,545,355	0	13,604,765	0		13,604,765
租税公課	1,563,824	0	0	0	1,563,824	0		1,563,824
支払負担金	12,895,740	3,920,000	250,000	0	17,065,740	0		17,065,740
雑費	396,651	376,470	5,578	0	778,699	0		778,699
管理費	0	0	0	0	0	6,636,121		6,636,121
給料手当	0	0	0	0	0	2,548,106		2,548,106
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	163,800		163,800
退職給付費用	0	0	0	0	0	160,000		160,000
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0	290,000		290,000
福利厚生費	0	0	0	0	0	479,782		479,782
会議費	0	0	0	0	0	296,736		296,736
旅費交通費	0	0	0	0	0	231,532		231,532
通信運搬費	0	0	0	0	0	580,468		580,468
消耗品費	0	0	0	0	0	8,400		8,400
備品費	0	0	0	0	0	118,879		118,879
印刷製本費	0	0	0	0	0	252,990		252,990
光熱水料費	0	0	0	0	0	118,366		118,366
賃借料	0	0	0	0	0	735,556		735,556
リース料	0	0	0	0	0	74,976		74,976
渉外費	0	0	0	0	0	33,921		33,921
委託費	0	0	0	0	0	87,779		87,779
租税公課	0	0	0	0	0	390,956		390,956
雑費	0	0	0	0	0	63,874		63,874
経常費用計	101,357,920	15,645,273	6,274,140	0	123,277,333	6,636,121		129,913,454
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 11,791,057	△ 11,730,905	△ 3,028,140	18,953,223	△ 7,596,879	12,266,290		4,669,411
評価損益等計	0	0	0	0	0	0		0
当期経常増減額	△ 11,791,057	△ 11,730,905	△ 3,028,140	18,953,223	△ 7,596,879	12,266,290		4,669,411
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0		0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0		0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 11,791,057	△ 11,730,905	△ 3,028,140	18,953,223	△ 7,596,879	12,266,290		4,669,411
当期一般正味財産増減額	△ 11,791,057	△ 11,730,905	△ 3,028,140	18,953,223	△ 7,596,879	12,266,290		4,669,411
一般正味財産期首残高	△ 132,680,153	△ 100,251,395	△ 40,603,041	292,102,890	18,568,301	142,527,533		161,095,834
一般正味財産期末残高	△ 144,471,210	△ 111,982,300	△ 43,631,181	311,056,113	10,971,422	154,793,823		165,765,245
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0	0	10,000,000	10,000,000	0		10,000,000
指定正味財産期末残高	0	0	0	10,000,000	10,000,000	0		10,000,000
III 正味財産期末残高	△ 144,471,210	△ 111,982,300	△ 43,631,181	321,056,113	20,971,422	154,793,823		175,765,245

【会議報告】

第75回理事会

1. 開催された日時

令和7年9月27日(土) 14時00分～15時53分

2. 開催された方法

WEB開始システム(ZOOM)によるオンライン会議

3. 理事総数及び定足数

現在21名、定足数11名

4. 出席理事数(17名)

理事：秋元 恵美、有吉 正博、片平 誠人、
蒲原 一之、苅部 俊二、工藤 洋治、
黒須 雅弘、障子 恵、大後 栄治、
鶴崎 健一、永井 純、長澤 光雄、
日隈 広至、広川龍太郎、福島 洋樹、
松本 正之、山下 誠
監事：細萱 智大、山本 俊樹
欠席理事：岡崎 朋美、小倉 幸雄、北井 敏雄、
安井 年文

5. 議 題

【協議事項】

第1号議案：2026年度主要競技会日程について

第2号議案：勲功章について

第3号議案：第20回日本学生20km競歩選手権大会
の名称変更について

第4号議案：WUC世界大学クロカン日本代表選手選
考要項について

第5号議案：普通会员の登録数について

第6号議案：非公認競技場でのハンマー投実施に関
する処分について

第7号議案：その他

【報告事項】

①会務の報告

②WUG(ライン・ルール)総括

③専門委員会再編成について

④競技会申請について

⑤その他

- ・役員について
- ・能登駅伝(仮称)
- ・ロードレース奨励金について
(女子ハーフ、男女競歩)
- ・「国際武道大学への質問」について
- ・日本陸連/功労章、秩父宮章について

6. 議事の経過およびその結果

(1)定足数の確認

(2)議長および議事録署名人の選出

(3)議案の審議および議決結果等

【協議事項】

第1号議案 2026年度主要競技会日程について

次年度は第20回アジア大会が愛知で開かれるとい
うこともあり、関係者で協議し、日本インカレは9月
上旬に開催したいということとなった。会場の希望は
横浜市の日産スタジアムに8月下旬から9月上旬ま
で準備日を入れて5日、難しければ4日取れるかとい
う交渉を行っているところである。Jリーグの状況
次第となる。

個人選手権については6月に日本選手権が開催さ
れることや他の大会等の事情、日本グランプリシリー
ズの日程も考えて4月の4週目とする。

日本インカレの10000mは個人選手権の中でインカ
レ種目として開催する。競歩に関しては日本インカレ
の中で行いたいということで暑熱対策を考え5000m
に距離を短縮して行う。

C資格に関して、今年度の日本インカレが6月開催
だったため、9月に開催された西日本インカレ、北日
本インカレの優勝者について関係者で協議し、次年
度の登録者に限り認めることとする。

ロード種目に関しては例年通りの予定だが、全日本
大学駅伝について1週遅くしたいという話も出ている
ため今後の検討となる。

日本インカレの10000mを4月の開催となると地区
インカレの優勝者のC資格が得られないこととなる
ため、今後、検討会議を開催することとした。

提案内容を承認することを、出席理事全員一致で
可決した。

第2号議案 勲功章について

対象はオリンピック・世界選手権の入賞者、ワール
ドユニバーシティゲームズの優勝者など。今回は10
名が対象となる。世界選手権男子リレーでの入賞者
は以前受章しているため対象外となる。授与は12月
の理事会時を予定する。

提案内容を承認することを、出席理事全員一致で
可決した。

第3号議案 第20回日本学生20km競歩選手権大会の名称変更について

日本陸連と共催している能美競歩に関してハーフマラソンの距離で大会を行う通達があり、大会名称から距離を削除し、要項の中でハーフマラソンであることを表示するようにしたい。

提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案 WUC世界大学クロカン日本代表選手選考要項について

編成方針は前回と変えないが、FISUのレギュレーションが正式に出ていないため詳細はこれから。男女4名ずつ派遣することで準備を進めている。選考対象は次年度も登録する選手とする。選考方法については予選会の日程が取れないため、10000mの記録上位者から選ぶこととする。

補足として、本来は選考会をするべきだが、U20世界クロスカントリーの選考会が11月30日に設定されている都合で、他の日に設定しても駅伝の都合もあり難しいということとなった。

提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案 普通会员の登録数について

日本インカレ開催時の理事会より2,592人増えて20,660人となった。

提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案 非公認競技場でのハンマー投実施に関する処分について

順天堂大学におけるハンマー投の不適正実施ということで、4月に審議した流通経済大学の案件とほぼ同様のこと。本件について関東学連でまずは検討がなされた。関東学連倫理委員会で処分の答申案が8月29日に出され、9月10日の関東学連理事会で審議があり、資料の通りの処分が決定した。不服申立期間が9月24日までで、申し立てはなかったため9月25日に公表があり、複数のメディアで取り上げられた。大学のサイトでも謝罪文が掲載された。日本学連としても同様の処分を行うかの審議となる。

処分案として、競技会の主催禁止はもう関東が言い渡したので、重ねて言い渡す必要はなく、指導者に対して、本連合主催競技会への参加禁止を関東学連の処分者と同様に同期間行う。また、公表に関しては日本学連として行わない。さらに、順大競技会の記録を使って出場した本連合主催競技会の成績は、出場選手

は被害者という面もあり認める。以上3点を審議する。

提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

①会務の報告

前回理事会以降の職務執行について報告があった。要点(永井)：駅伝関係の実行委員会が始まり、計画を立てている。また、日本陸連の招集で尾縣陸連会長(当時)・田崎専務理事・鈴木事務局長、関東学連の植田会長・日隈専務理事、日本学連の松本会長・永井専務理事出席のもと、競技会運営の不正について協議した。日本インカレ特別協賛の三井住友フィナンシャルグループには松本会長、永井専務理事、大西事務局長、河野事務局次長で報告に伺った。

強化委員会(山下)：ワールドユニバーシティゲームズは安井チームリーダー、米田監督はじめ皆さんの尽力で、無事に、滞りなく、またメダル獲得という大きな成果も得られた。役員は強化委員会中心に構成しているが今後は若い指導者にも入っていただきたい。実業団対学生も負け続けているが学生にとって良い大会となったかなと思う。日本インカレの標準記録やC基準に関して早急に決めていきたい。

総務委員会(障子)：日本インカレはトラブルもなかったが、暑さの関係で体調不良を起こした学生や総務委員もいたため対策について再検討が必要。迷惑撮影に関して対応できたが競技場外でも不審者がいた。どこまで対応するかという問題がある。今後は競技会がひと段落しているため、登録の問題について検討を考えている。

事務局(河野)：日本インカレで特別協賛いただいている三井住友フィナンシャルグループの協賛メニュー、協働事業として社員の方のプロボノ活動を受け入れている。プロボノというのはボランティアの一種だが、仕事上の専門性を生かした社会貢献活動ということで、日本学連に限らず非営利団組織の中に入って一緒にその組織の課題を考えようというところ。日本学連としては財務状況、特に財務改善について一緒に考えてもらっている。最終提案は12月になる。ヒアリングなど協力をお願いする場面もあると思う。

②WUG(ライン・ルール)総括

黒須雅弘理事より資料に基づき報告があった。

日本選手団は従来そろって出入国を行うが、今回はフライトスケジュールが分散し、みんなで行動するというのがない非常に珍しい遠征だった。他にもイレ

ギョーな対応が多かった。試合結果に関しては金メダル5つ、銀メダル3つ、銅メダル3つという結果。今回は特に短距離が全員次のラウンドに進めたというのが非常に大きな結果だった。フィールドは少し苦労したところもあったが、ロード種目でメダルは非常に評価できる。

今回のドイツ大会の招致に関しては36年、40年あたりに五輪をやりたいという風潮があって、その布石としてとのこと。現地の人からこのような情報を聞くのも強化にとっては貴重だった。

大きな怪我や病気がなく帰国することができて良かった。

③専門委員会再編成について

河野匠事務局次長より資料に基づき検討中の事項について報告があった。

この1年くらいいろいろな委員会の方と業務をする中で、もっと効率の良い形があるのではないかとということで永井専務理事、大西事務局長、総務委員会・競技委員会の委員長、副委員長と議論してきた。端的には総務委員会と競技委員会の再編。総務委員会の競技会に関わる業務を競技委員会と統合して競技会運営委員会とし、総務委員会は競技会以外の法人運営・管理の業務を中心に行う。委員会規程の変更も含めて12月の理事会で協議をお願いしたい。

④競技会申請について

大西清司事務局次長より資料に基づき報告があった。

近年、競技会申請の面においていろいろと不備があり、日本陸連からも指摘を受けている。場合によっては処分を下されることも考えられるため、理事会を通じて各地区の理事の皆さんには各加盟校に対してちゃんとルールを守るよう発信してもらえればありがたい。

また、WRK申請について、日本学連が窓口になっているが、WA規則から外れた競技会運営をした場合に学連とか大学とかの問題ではなく日本全体の問題となるため、さらに襟を正して運営してもらいたい。

⑤その他

- 役員について永井純専務理事、大西清司事務局次長から報告があった。

関根春幸常務理事から辞任したいとの連絡があり、実業団対学生の際に松本会長、有吉副会長、永井専務理事、工藤常務理事で話して本人の意思を受け取った。登記も完了している。競技委員会は羽田雄一副委員長を委員長代行とする。

- 能登駅伝（仮称）について大西清司事務局次長、大後栄治理事より報告があった。

9月上旬にコース予定地の下見があった。前半、外海の方は随所にまだ工事中のところがあり、片側交互通行や迂回コースもいろいろあり、アップダウンがすごい状態だった。後半の富山湾の方はある程度平坦なコースだが、それでも多少のアップダウンはある中でトータルは250kmとなる。完全復旧は令和10年になるという計画で進んでいる。肝心の宿泊施設は令和9年の後半に7割程度の回復が見込まれる。そんな状況にあっては、現実にはまだ開催日程的なものは全然出てこないという状況。今後復興駅伝という旗印で、学連が関与する従来の駅伝と違うので、社会貢献、住民の皆さんを応援するような形になる。沿道の市町村はまだまだ駅伝どころではないという雰囲気もなんとなく感じるが、石川県としては是非実現したいという大きなエネルギーを感じた。こういった地域復興とか災害復興に日本学連として何百名単位で学生を派遣するというのは記憶にないが、もし実行されとなると、大学生のアスリートがどういう形で復興に貢献できるのか、責任を果たさなければならないと強く感じた。これから各地区学連の皆さんに協力いただけないとなかなか成功しないため、よろしくお願いします。

- ロードレース奨励金について（女子ハーフ、男女競歩）について永井純専務理事より報告があった。

女子ハーフマラソンと男女の競歩が対象。下火になっている大会を活性化させたいというところで、澤木顧問の尽力もあり女子ハーフは地元企業に協力を要請している。継続に関してはある程度の資金の確保が課題となる。今後検討していく。

- 「国際武道大学への質問」について資料に基づいて工藤洋治常務理事より報告があった。

国際武道大に対しては昨年8月29日に2年間主催競技会禁止の処分を通知して1年が経過した。最近になって国際武道大学で記録会が行われているという声が寄せられた。この記録会の主催は勝浦市陸上競技協会となっているが、実態を確認するために日本学連として大学に対して質問状を送付する。これに答えてもらうことによって処分逃れではないということを確認したい。

- 日本陸連／功労章、秩父宮章について永井純専務理事より報告があった。

推薦者は松本会長に一任しているが、功労章に永井立子参与、秩父宮章に有吉正博副会長を推薦し受章が決まった。なお、功労章の授与については今年が最後となる。

資料

2026年(令和8年度)主要競技会(予定)および2026(令和8年度)主要会議(定時予定)

2026年(令和8年度)主要競技会(予定)			
1	2026日本学生陸上競技個人選手権	4月24日(金)～4月26日(日)	平塚
	* 今後4月第4週の金・土・日に固定。		
	* WUGのある年は最終選考会として設定。 ➡ 男女10000m、男女混成競技を加える。		
	* 2026年は95回日本インカレの暑熱対策として男女10000mを行う。		
2	秩父宮賜杯第66回実業団・学生対抗陸上競技大会	未定(早急に実業団側と協議)	平塚
	* これまで7月下旬もしくは8月上旬に行われていたが暑熱対策が必要であり時期は未定		
3	天皇賜盃第95回日本学生陸上競技対校選手権大会	8月下旬・9月10日(予定)	横浜
	* 8月最終週～9月10日の期間(曜日を問わない) 準備日を含め5日間もしくは4日間で調整		
	* 暑熱対策として男女10000mは4月の個人選手権で開催(検討中)		
	* 男女10000 m Wは5000 m Wに変更して開催(検討中)		
	第20回アジア大会(陸上競技)	9月23日(水)～9月28日(月)	愛知
4	第38回出雲全日本大学選抜駅伝	10月12日(月・祝)	出雲
5	第44回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	10月25日(日)	仙台
6	秩父宮賜杯第58回全日本大学駅伝対校選手権大会	11月1日(日)	名古屋・伊勢
	三重陸協から高校駅伝の日程上1週間遅くしてもらえないかとの要望あり		
	ナイメーヘン15kmロードレース(オランダ)	11月 日(日)??	オランダ
7	2026全日本大学女子選抜駅伝競走	12月30日(火)	富士宮・富士
8	第30回日本学生ハーフマラソン選手権大会	2027年2月1日(日)(未確認)	丸亀市
9	第21回日本学生競歩選手権大会	2027年3月14日(日)(未確認)	能美
	* 日本学生20km競歩選手権大会 ➡ 距離がハーフマラソンの距離になったため大会名の変更		
10	第30回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	2027年3月14日(日)(未確認)	松江

2026(令和8年度)主要会議(定時予定)	
理事会(2025事業報告)	5月
第17回定時社員総会	6月
理事会	6月
理事会	9月
理事会	12月
理事会	3月
第52回学生幹部研修会	3月
第72回指導者会議	3月

資料

令和7年度栄章受章者(勲功章)

2. 勲功章(栄章に関する規程 第3条)
- (ア) 定款第6条第2号に規定する普通会員であってオリンピック競技大会に日本代表として出場し、入賞した者
 - (イ) ワールドユニバーシティゲームズ競技大会に日本代表として出場し優勝した者
 - (ウ) 定款第6条第2号に規定する普通会員であって世界選手権大会に日本代表として出場し、入賞した者
 - (エ) 定款第6条第2号に規定する普通会員であって世界記録を更新した者

※年齢は競技会当日

栄章	氏名／カナ	競技会名／成績	年齢	区分	所属
勲功章	阿部 竜希 アベ タツキ	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) 110 m H 金メダル 13秒47	21	イ	順天堂大学
勲功章	工藤 慎作 クドウ シンサク	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) ハーフマラソン 金メダル 1:02:29	20	イ	早稲田大学
勲功章	上原 琉翔 ウエハラ リュウト	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) ハーフマラソン団体 金メダル 3:07:52	20	イ	國學院大學
勲功章	馬場 賢人 ババ ケント	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) ハーフマラソン団体 金メダル 3:07:52	21	イ	立教大学
勲功章	土屋 舞琴 ツチヤ マコト	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) ハーフマラソン団体 金メダル 3:39:32	21	イ	立命館大学
勲功章	野田 真理耶 ノダ マリヤ	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) ハーフマラソン団体 金メダル 3:39:32	20	イ	大東文化大学
勲功章	前田 彩花 マエダ アヤカ	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) ハーフマラソン団体 金メダル 3:39:32	20	イ	関西大学
勲功章	土屋 温希 ツチヤ アツキ	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) 20kmW 団体 金メダル 4:03:45	21	イ	立命館大学
勲功章	原 圭佑 ハラ ケイスケ	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) 20kmW 団体 金メダル 4:03:45	23	イ	京都大学
勲功章	吉迫 大成 ヨシザコ タイセイ	ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール) 20kmW 団体 金メダル 4:03:45	20	イ	東京学芸大学

資料

第20回日本学生競歩選手権大会要項

- 1. 主催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
- 2. 期日 令和8年3月15日(日)
- 3. コース 能美市営ハーフマラソン競歩コース(WA認証コース)
- 4. 競技種目 男子ハーフマラソン競歩、女子ハーフマラソン競歩 21.0975km
※本大会はWRk申請大会です。
- 5. 参加資格 1) 2025年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員
2) 有効期間内に参加標準記録を突破した者。なお、参加標準記録および有効期間は、第50回全日本競歩能美大会の要項を参照のこと。
- 6. 競技規則 2025年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項による。
※広告規程は全て国内規程にて実施する。
- 7. 参加料 1) 1名につき4,000円
2) 参加料は、理由の如何にかかわらず、返金しない。
- 8. 申込方法 第50回全日本競歩能美大会の要項に従って申し込むこと。
- 9. 表彰 第1位から第3位にはメダルおよび賞状を、第4位から第8位までには賞状をそれぞれ贈与する。
- 10. その他 1) 本大会は日本陸上競技連盟、他が主催する「第50回全日本競歩能美大会」と併催される。
2) 競技中に発生した傷害・疾病等についての応急処置は主催者にて行うが、それ以後の責任は一切負わない。
ただし、2025年度日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
3) 主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。尚、取得した個人情報、大会の資格審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営および陸上競技に必要な連絡等に利用する。
4) 大会の映像・写真・記事・個人記録などは、主催者および主催者が承認した第三者が、大会運営および宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。

資料

2026 世界大学クロスカントリー選手権大会 (イタリア・カッシーノ) 2026 World University Cross Country Championship in Italy, Cassino 日本代表選手選考要項

1. 編成方針 本大会において入賞が見込まれるとともに、今後の日本長距離界を担うことが期待され、学生トップレベルの競技力を有する競技者で編成する。
2. 選手 男子 10 km : 4 名 女子 10 km : 4 名 (予定)
派遣人数 ※現時点で FISU からレギュレーションが公表されていないため、派遣種目および人数は変更となる場合がある。
3. 選考対象 2025 年度日本学生陸上競技連合普通会員のうち、大学 3 年生以下の者、その他 2026 年度日本学生陸上競技連合普通会員登録が見込まれる者で、日本国籍を有する者を対象とする。
4. 選考方法 10000m 記録上位者 男女 4 名ずつ
(男女共通) ・記録有効期間内に派遣標準記録を突破し、選考意思を示した者の中で、記録上位者男女各 4 名を選考する。
選考意思のある者は、2026 年 1 月 7 日 15 時までに、記録を証明できるものを提出して派遣意思を示すこと。
(提出先: 下記メールアドレス)
・派遣標準記録: 男子 28 分 35 秒 00 (10000m)
女子 34 分 00 秒 00 (10000m)
・記録有効期間: 2025 年 1 月 1 日 ~ 2025 年 12 月 31 日まで
※選考意思を示した者が 4 名に満たなかった場合、強化委員会の推薦によって選手を選考する。
なお、レギュレーションの公表によって派遣種目および人数が変更となる場合、派遣種目の特性によって 10000m 以外の種目 (1500m、5000m、3000mSC 等) の記録上位者を選考することがある。
5. その他 代表選手として決定した後でも、本大会までに故障などのために競技力を十分に発揮できないと強化委員会が判断した場合には代表を取り消す。その場合に、エントリー締切前であるときは、別の競技者を代表選手として追加選考することがある。
レギュレーション公表後、本選考要項は変更となる場合がある。変更が生じた際は、本連合 HP 等で告知するので、各自よく確認すること。

【お問い合わせ先】 〒151-0053 公益社団法人日本学生陸上競技連合
東京都渋谷区代々木 1-58-11 中沢ビル 2F
Email: juaui@joy.ocn.ne.jp 担当: 桑原、大西、河野

資料

WUG (ライン・ルール) 総括 チームリーダー 安井 年文 (青山学院大学)

陸上競技として過去最大の選手 47 名 (男子 28 名、女子 19 名) 役員 16 名で 7/21 日から 27 日まで、ドイツ・ボフムにおいて試合に臨んできた。

総合的な競技結果として金メダル 5、銀メダル 3、銅メダル 3、入賞 (第 4 位 - 第 8 位) 14 であった。メダルの多くはロード種目に偏っているのも、これまでの WUG での特徴と同様ではある。今回の男女のハーフマラソン、男子の競歩団体では圧倒的なチーム力により金メダルを計 3 つ獲得した。個人種目においても男子ハーフマラソンでは工藤慎作選手 (早稲田大学) が金、上原琉翔選手 (國學院大学) が銅、男子 20 km 競歩では土屋温希選手 (立命館大学) が銀となった。

全体の中でも個人種目での金メダル 2 つは特に評価できるものであろう。工藤選手の序盤からの先行逃げ切りレースはとても勇気のいる展開であったと思われるが、見事なレース運びであった。さらに男子 110mH における阿部竜希選手 (順天堂大学) は予選に合わせることなく決勝にピークを持ってきて、下馬評通りの強さを見せての優勝であった。

また、男子 100m における柳田大輝選手 (東洋大学) は先の日本陸上競技選手権大会でのスタートの失敗をラウンドごとに修正をかけて最終的に銅メダルを獲得した。

男子走幅跳の藤原孝輝選手 (東洋大学) は予選突破の条件が異常に高かったため、予選はかろうじて通過であった。決勝では 1 試技目により集中して機先を制する 8m00 の快心の跳躍みせ終盤までトップを維持した。残念ながらその後、記録を伸ばせず惜しくも銀メダルの獲得であった。しかし見ごたえのある試合運びは大いに評価できる。

総メダル数 11 のうち、長距離ブロック約 55% (男子ハーフマラソン 3、女子ハーフマラソン 3)、競歩ブロック約 18% (男子 2)、短距離・障害ブロック約 18% (男子 100m 1、男子 110mH、1) 跳躍ブロック約 9% (男子走幅跳 1) ととらえることもでき、長距離、競歩にメダル獲得については依拠しているところは否定できない。

さらに、入賞 (4 - 8 位) は 14 名おり、総合的に入賞率として約 47% の 22 名 (男子 16 名、女子 6 名)、非入賞率としては約 53% で 25 名 (男子 12 名、女子 13 名) という結果でもあった。包括して考えるとほぼ半数は入賞を達成できており、ある一定の評価はできるであろう。特にメダルにあと僅かの 4 位という結果が 6 種目もあったのはまだまだメダルの獲得率や向上の余地を残しているものとも考えられる。

今回の試合会場等の配置やシステムはこれまでと大きく相違して、混乱の続く中での開催であったが選手、チームスタッフの連携が密であったことがメダルプレーシングテーブル国別対抗でも首位であったと自負できるであろう。

月 日	行 事(報告内容)
6月 5日(木)	第73回理事会 於：岡山市
6月 5日(木)～6月 8日(日)	天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会
6月11日(水)	日本陸連・日本学連・関東学連3者会長会談
6月12日(木)	全日本大学女子駅伝/ADKマーケティングミーティング 於：日本学連事務局
6月16日(月)	日本陸連・日本学連迷惑撮影に関するミーティング 於：日本学連事務局
6月17日(火)	WUG派遣ミーティング (JOC) オンライン会議
6月17日(火)	日本インカレ・ヤクルト(協賛会社)報告訪問 於：ヤクルト本社
6月20日(金)	富士山女子駅伝実行委員会事前打ち合わせ 於：日本学連事務局
6月20日(金)	WUG派遣・選手・役員JOC支給品発送作業 於：NTC/ナショナルトレーニングセンター
6月21日(土)	第17回定時社員総会 オンライン会議
6月24日(火)	出雲駅伝/IVYリーグ招聘に関するミーティング 於：日本学連事務局
6月25日(水)	WUG派遣・監督会議および医務会議 於：NTC/ナショナルトレーニングセンター
6月26日(木)	第1回富士山女子駅伝実行委員会 於：富士市教育会館 オンライン会議併用
6月27日(金)	出雲駅伝・実行委員会事務局会議 オンラインミーティング
6月27日(金)	SMBC/プロボノ・キックオフミーティング 於：大手町/三井住友銀行本店
7月 1日(火)	第65回実業団・学生対抗陸上 実行委員会 於：TKP・市ヶ谷
7月10日(木)	強化委員会 オンライン会議
7月10日(木)	まつえレディースハーフ・学生女子ハーフ選手権 実行委員会 於：松江市役所
7月11日(金)	出雲駅伝実行委員会 於：出雲市役所
7月14日(月)	WUG 陸上競技日本代表結団式 オンラインにて実施
7月16日(水)	WUG 陸上競技日本代表 1陣出発 成田空港
7月17日(木)	WUG 陸上競技日本代表 2陣出発 成田空港
7月17日(木)	富士山女子駅伝交通対策会議 於：富士市教育会館
7月17日(木)	スポーツ庁・学生幹事面談 於：日本学連事務局
7月20日(日)	WUG 陸上競技日本代表 3陣出発 成田空港
7月21日(月)～7月27日(日)	WUG(2025ライン・ルール) 陸上競技
7月24日(木)	SMBC日本インカレ協賛報告訪問 於：三井住友銀行本店
7月25日(金)	全日本大学駅伝・シチズン協賛ご挨拶 於：田無/シチズン本社
7月27日(日)	WUG 陸上競技日本代表 帰国 成田空港
7月28日(月)	WUG 陸上競技日本代表 帰国 成田空港
7月29日(火)	WUG 陸上競技日本代表 帰国 成田空港
7月30日(水)	読売テレビ 日本インカレライブ配信等報告ミーティング 於：日本学連事務局
7月31日(木)	SMBC/プロボノメンバーミーティング 於：日本学連事務局/オンライン併用
7月31日(木)	マーケティングに関するミーティング 於：日本学連事務局
8月 4日(月)	2026年度主要競技会日程検討ミーティング オンライン会議
8月 5日(火)	全日本大学女子駅伝/ADKマーケティングミーティング 於：日本学連事務局
8月 6日(水)	総務委員会 於：日本学連事務局及びオンライン併用
8月 7日(木)	湘南ケーブルテレビジョン/実学対抗打合せ 於：平塚市
8月 9日(土)	第65回実業団・学生対抗陸上競技大会 於：レモンガススタジアム
8月20日(水)	2026年度日産スタジアム打合せ 於：日産スタジアム
8月21日(木)	2026年度主要競技会日程検討ミーティング オンライン会議
8月27日(水)	総務委員会・競技委員会幹部ミーティング 於：日本学連事務局
8月28日(木)	競技委員会 於：日本学連事務局及びオンライン併用
8月28日(木)	強化委員会/長距離・競歩ミーティング オンライン会議
8月29日(金)	倫理委員会 於：オンライン会議
9月 2日(火)～9月/3日(水)	能登駅伝コース下見および基本計画策定ワーキング 於：能登半島/七尾市
9月 4日(木)	通信制大学の地区学連加盟に関する意見交換会 於：オンライン会議
9月 8日(月)	総務委員会 於：日本学連事務局及びオンライン併用
9月11日(木)	第2回富士山女子駅伝実行委員会 於：富士市教育会館 オンライン会議併用
9月12日(金)	SMBC/プロボノメンバーミーティング 於：日本学連事務局/オンライン併用
9月24日(水)	企画委員会 オンライン会議
9月26日(金)	SMBC/プロボノ 中間報告会議 於：日本学連事務局/オンライン併用
9月27日(土)	第74回理事会 オンライン会議

今年度、競技会開催申請において、無断での競技会中止や日程変更が相次いでおります。

今後このような事態が続きますと、競技会開催禁止等の処分を下す場合がございますので、より一層ルールに則った競技会運営を行っていただきますようよろしくお願いいたします。

また、公認記録申請に関しましても、こちらが指定した書式と違う形での申請が行われていたり、必要情報の欠損が見受けられておりますので、改めて下記の申請の流れをご確認いただきますようよろしくお願いいたします。

競技会申請 競技会開催初日以降の申請は出来ません。余裕を持って申請を行ってください。
事後申請の場合、日本学連または各地区学連より相応の処分を行う場合があります。

●日本学連加盟校主催大会のWRkへの大会申請について●

今年度、WRk申請大会において、主催者判断によって無断で大会中止が行われた事例がございました。通常の大会申請と同様に大会中止や日程変更を行う場合には事前連絡が必要となります。WRk申請大会で不備がございますと、WAより日本としてペナルティを受けることとなります。改めて、下記注意事項等をご確認いただき、慎重かつ正確な大会運営をしていただきますよう、お願い申し上げます。

○申請条件

- ・申請・入金スケジュールにのっとり申請を行うこと。
→資料後半の申請の流れを確認し、記載の手順で日本学連に申請すること。申請書を基に日本学連からWAへオンライン申請する。
- ・申請料を支払うこと。1つの競技会につき5,000円の料金が発生する。
- ・WAの競技規則に則った競技会運営が行われていること。
特に記録や計測に関わる部分の適用(計測器具、投てき器具、計測方法etc.)
ロードはWA承認コース、競歩はWA承認コースでWA競歩審判員が3名以上必要である。
競技会を公平な立場で監督できる近隣地域などの公認審判員を依頼しWA規則通りに行われたことを確認する。
(証明書等はないが、どの審判員がその立場にあったのか報告できるようにしておくこと)
難しい場合には、依頼により本連合競技役員への派遣を検討するのでその旨を申し出ること。
- ・競技終了後、主催者より直ちにWAへ記録申請を行うこと。
アドレス worldathleticsmeetingresults@worldathletics.org
広報アドレス editor@worldathletics.org
CCに日本陸連(world-ranking@jaaf.or.jp)、日本学連WRk専用アドレス(juauj.kyogikai1928@gmail.com)、
各地区学連のメールアドレスを入れること。24時間以内に申請できない場合には、WRkへの申請が無効となる場合がある。

◆第1回基本計画作成ワーキング

期日：令和7年5月29日(木) オンライン会議

◆コース下見・第2回基本計画作成ワーキング(日本学連から大後理事、大西事務局長が出席)

期日：令和7年9月3日(水)～4日(木) 場所：能登半島・七尾市文化ホール

※詳細は非公開

【コース下見における道路復旧状況(想定しているコースおよび周辺の状況)】

- ・報道を通して、能登半島、特に奥能登の復興が遅れているイメージであったが、幹線道路などは迂回路の箇所や、片側相互通行も随所に見られたものの、復旧も急ピッチで進んでおり、仮設定のコース約250kmを回ることができた。国道の完全復旧は令和10年度になると計画されているが、住民感情を考えると完全復旧後の大会開催が良いとの意見があった。
- ・初日の外浦のコース(日本海側)はアップダウンが激しくタフなコースである。女子選手にとっては大変厳しいと思われる。2日目の富山湾側のコースは比較的平坦なコースとなっている。
- ・コースは風光明媚な国道と市町村の民家が集まっている生活道路を組み合わせており、復興駅伝の名のもと、住民(民家)により近いコースを選定している。生活道路は車1台しか通れない細い道も多く、安全性や運営面との調整が大きな課題になると思われる。
- ・民家の修復も急ピッチで進んでいるようだが、競技場などの公的な場所の多くは仮設住宅がぎっしりと建てられているので、復興はまだまだかもしれない。
- ・多くの宿泊施設がまだ休業している。宿泊場所については、令和9年度後半に7割程度回復/目標となっているようだが、コース上の行政担当者からの話では、改修工事等も入札不調など厳しい状況になっているなどの意見も出された。

【今後について】

まだまだ多くの課題や多方面からの検証が必要となっている。日本学連が主催している既存の駅伝とは異なるコンセプトのもと、選手強化兼社会貢献の意味合いを持った大会である認識が必要になると思う。地元教育委員会からは、将来のめども立たない方がいる中で、選手と住民の一体感を持てるような大会にしたい。選手も住民を応援しているというメッセージがほしい。との意見が印象的であった。石川県としては何とか実現したいという大きなエネルギーを感じていることもあり、開催実現に向け、日本学連も新しい志向のもと応援ができればと感じた。

強化委員会より

2025年度上半期について

強化委員長 山下 誠

2025年度は4月の個人選手権でシーズンが幕を開けた。選考会を兼ねた本大会では、中長距離種目を中心に大会新記録が続出(大会新17、タイ1)。男子800mでは落合晃(駒澤大1)が1分45秒88で大会新を樹立し、3000m障害では佐々木哲(早稲田大1)が8分36秒30をマークして将来性を印象づけた。さらに走高跳や投擲種目でも記録更新が相次ぎ、シーズン序盤ながら学生陸上全体の底上げを感じさせる大会となった。

9月の東京世界陸上を控え、6月に岡山で開催された日本インカレは過密な日程が懸念されたが、リレーやフィールド種目での飛躍が際立った。男子4×400mリレーは東洋大が3分03秒64、女子は園田学園大が3分35秒41とともに大会新を樹立。東洋大の記録は大学単独チームにおける日本学生新記録となる好成績であった。

続いてドイツで開催されたFISUワールドユニバーシティゲームズ(WUG)には、男子28名、女子19名の日本代表学生が出場し、世界の舞台で健闘した。阿部竜希(順天堂大4)が110mハードルで金メダルを獲得。工藤慎作

(早稲田大3)はハーフマラソンで1時間2分29秒を記録して金メダル、上原琉翔(國學院大4)も3位に入り、団体でも金メダルを獲得するなど、日本学生長距離界の厚みを示した。女子10000mでは細見芽生(名城大1)が自己記録となる32分01秒91で4位入賞を果たした。

日本勢は金5、銀3、銅3の計11個のメダルを獲得し、14種目で入賞という成果を挙げた。大会直前には役員的大幅な減員など混乱もあったが、全日程を無事に終えられたのは関係者の尽力と臨機応変な対応の賜物であり、深く感謝申し上げたい。

8月にはオールスターナイト陸上が平塚で開催された。世界陸上の代表候補も出場し、大会タイ1と7つの大会新記録が誕生するハイレベルな大会となった。実業団対学生の対抗戦は、今年も実業団が総合優勝を飾った。

2025年前半は、若手の台頭と記録更新が相次いだ実り多きシーズンであった。これらの成果を一過性で終わらせず、継続的な成長と国際舞台での成果へとつなげる体制作りを進めていきたい。

総務委員会より

天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会における大会運営について

総務委員長 障子 恵

1959年以来66年ぶりに岡山県で開催された本大会は、FISUワールドユニバーシティゲームズおよび東京2025世界陸上との関係で、例年より早い6月に行われました。入梅時期でもあり大会期間中の天候を心配しておりましたが、天候に恵まれ、予定通り実施することができました。本大会も日本学生新記録や大会新記録も複数樹立され、盛況のうちに終了しました。遠近を問わず、OB・OGや保護者、学生陸上ファンが多数来場くださったことに厚く御礼申し上げます。特に、高校生の来場が多かったことも印象的で、高校卒業後、彼らが本大会で活躍してくれることを楽しみにしております。

1. 会場管理

昨年同様、メインスタンドは有料観客専用としました。入退場口の動線も安全確保の観点から一方通行としましたが、大きな混乱もありませんでした。課題であったIDの不正利用は、普通会员に複製防止策を施したところ学生の不正入場は減少し、一定の成果が見られました。一方、自称「大学関係者」による不正入場は依然として多く、安全な環境整備の観点からも、スタッフ登録制の導入を検討しております。また、収容人数が少ない競技場で実施する際の大学待機場所確保や、複数の競技場と共有する駐車場の対応など、課題も残りました。

2. 迷惑撮影防止

カメラ・ビデオによる撮影者は加盟大学の関係者(OB・OG、家族、友人を含む)に限定し、その管理は自大学で行うこととしました。岡山県警察の場内巡回もあり、選手が安心して競技に集中できる環境を整えることができました。一方、取材を終えた入賞者を競技場外で待ち伏せして写真撮影をするということもありました。入賞選手には声がけに応じないよう周知したので問題は起きませんでしたが、管轄外のエリアにおける対応については、今後も検討が必要な課題です。

3. 暑熱対策と補助員確保

猛暑での開催が予想される中、役員・補助員の熱中症対策が重要課題でした。熱中症を疑う事象はありましたが、大きな問題もなく終えたことに安堵しております。首都圏・関西圏以外の地区で日本インカレを開催する場合、学生審判・補助員を十分に確保ができないことから学生一人あたりの負担が大きくなるため、招集する学生人数やローテーション(休息時間の確保)など、対応策の検討は継続課題となります。

日本インカレは、学生幹事、学生審判員、学生補助員の努力無くして本大会の成立はありません。学生諸君の頑張りに敬意を表します。来年も皆様のご来場を心よりお待ちしております。

令和7年 日本学生陸上競技連合

会員について(2025年度)

正会員 135名 普通会員 20,660名 賛助会員 16名

日本学生陸上競技連合 普通会員の各月変遷 単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	月合計
年度前	343	630	5,506	689	1,377	3,044	1,237	1,043	13,869
4月	257	193	2,335	264	78	299	361	422	4,209
5月	21	73	671	155	225	383	124	115	1,767
6月	15	29	123	31	86	96	63	51	494
7月	8	2	106	19	23	41	43	10	252
8月	5	3	45	1	2	13	13	6	88
9月									0
10月									0
11月									0
12月									0
1月									0
2月									0
退会者	0	0	-7	0	-2	-10	0	0	-19
合計	649	930	8,779	1,159	1,789	3,866	1,841	1,647	20,660

【参考：普通会員数の推移】 令和7年8月31日現在

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2025	649	930	8,779	1,159	1,789	3,866	1,841	1,647	20,660	791 ↑	2,486	20,660
2024	651	910	8,480	1,059	1,703	3,642	1,796	1,628	19,869	372 ↑	-427	413
2023	644	954	8,282	1,002	1,649	3,654	1,776	1,536	19,497	580 ↑	-1,245	923
2022	597	854	8,046	942	1,639	3,580	1,735	1,524	18,917	352 ↑	-1,866	743
2021	560	890	7,883	915	1,667	3,517	1,654	1,479	18,565	391 ↑	-2,132	687
2020	556	896	7,704	914	1,610	3,419	1,600	1,475	18,174	-2,122 ↓	-1,916	933
2019	702	979	8,373	996	1,938	3,764	1,787	1,757	20,296	-446 ↓	840	3,444
2018	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742	-41 ↓	2,168	4,085
2017	749	973	8,588	1,009	2,098	3,758	1,853	1,755	20,783	86 ↑	2,609	4,450
2016	756	933	8,578	1,009	2,088	3,689	1,884	1,760	20,697	607 ↑	2,819	4,483
2015	705	943	8,221	1,021	2,007	3,547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4,269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3,507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4,230
2013	628	914	7,547	903	1,835	3,383	1,781	1,583	18,574	400 ↑	1,917	3,991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205			

令和7年度オフィシャルパートナー (9月30日現在)

公益社団法人日本学生陸上競技連合はご覧のオフィシャルパートナーの皆様にご支援いただいております。
心より感謝申し上げます。

三井住友フィナンシャルグループ	株式会社明治
株式会社ヤクルト本社	ミズノ株式会社
株式会社修和	株式会社メッセホールディングス
マツト株式会社	株式会社ジールコミュニケーションズ
日興日本語学院	興和株式会社
株式会社ティーズフューチャー	

令和7年度 賛助会員 (9月30日現在 五十音順、敬称略)

ご入会ありがとうございました

浅見美弥子 阿保 雅行 安藤 好郎 石黒 成彬 入江 毅 金子今朝秋 黒岩 重幸 小池 七郎
河野 洋平 櫻井 孝次 田中 淳浩 豊岡 示郎 東川 安雄 藤井 邦夫 藤田 幸雄 山崎 健

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ￥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があり、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〔発行所〕公益社団法人 日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

編集後記

会報第173号(令和7年5月15日発刊)以降の事業では、令和7年6月5日(木)～8日(日)に天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会(以下日本インカレ)がJFE晴れの国スタジアム(岡山県営陸上競技場)で行われました。従来、9月2週目か3週目で開催されていましたが、本年は9月13日(土)～21日(日)に東京世界陸上競技選手権大会が開催されるため、今年度は6月開催となりました。また、来年も9月の同時期に名古屋でアジア大会が開催されるため、日本学連のカレンダーも苦しい時期設定になってきます。

今年度の対校成績は男子は順天堂大学が4年連続の優勝。女子は筑波大学と立命館大学が最後まで激しく争いましたが、最終種目の4×400mリレーの結果で筑波大学が4年ぶりの優勝を飾りました。学生新記録が出たり、大会記録が多く出たりして有意義な大会でした。

7月21日(月)～27日(日)には学生世界一の称号を懸けたFISUワールドユニバーシティゲームズ(以下WUG)がドイツのライン・ルールで行われました。最終選考会で選ばれた男子28名、女子19名が参加をしました。男子110mハードルでは阿部竜希(順天堂大学)が殊勲の金メダルを獲得。男子ハーフマラソンでは工藤慎作(早稲田大学)が旺巻の走りを披露。前半から独走態勢を築き金メダルのフィ

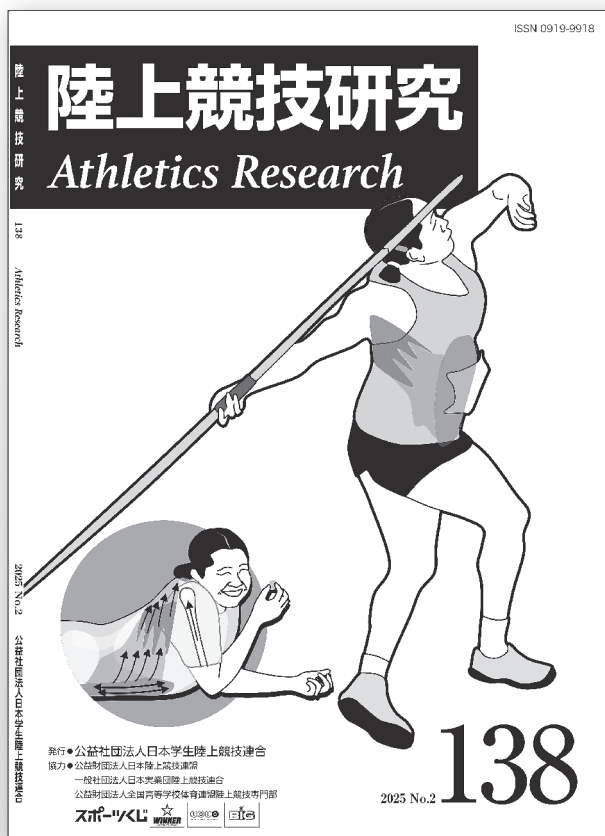
ニッシュ。上原琉翔(國學院大学)が銅メダル、馬場賢人(立教大学)が4位と力走し、3人の合計タイムで争われる団体で金メダルを獲得。女子ハーフマラソンでは土屋舞琴(立命館大学)が銀メダル、野田真理那(大東文化大学)が銅メダル、前田彩花(関西大学)が4位で、この種目も団体で金メダルを獲得しました。男子20km競歩では土屋温希(立命館大学)が銀メダル。他の2選手も健闘して団体で金メダルを獲得しました。日本代表は団体を含めメダル11個(金5、銀3、銅3)を獲得し、大変有意義な派遣だったと思います。次回は2027年に韓国・忠清道が開催地となります。

8月9日(土)には秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会が平塚市レモンガスタジアム平塚で開催されました。日本インカレの上位者、またランキング上位者を選考しました。特に今回はWUG代表選手が揃うことを期待していましたが、競技会直前にコンディション不良や他の競技会スケジュールとの都合が合わずキャンセル者が出て、学生チームの戦力は万全とは言えない状況で、結果は男女総合・男子・女子と実業団チームに完敗でした。

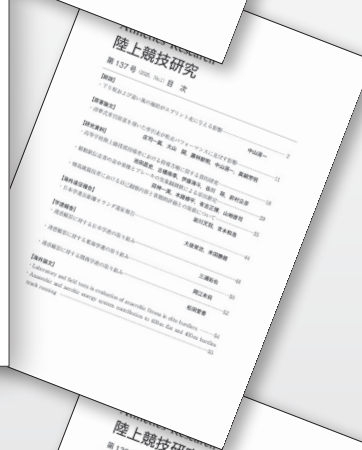
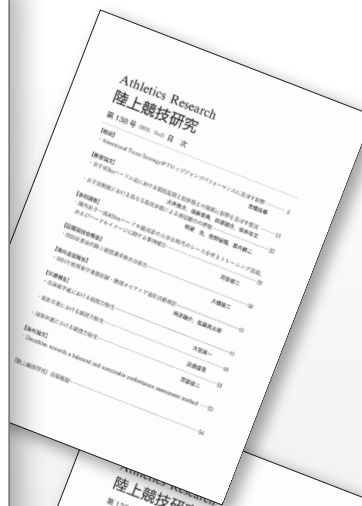
以上が前号からの事業報告および編集後記になります。今後も肅々と、令和7年度の事業計画を進めていくつもりです。今後とも進展と向上を目指したいと存じます。

(副会長/専務理事 永井 純)

「陸上競技研究」購読のご案内



第 138 号
2025, No. 2
2025 年 6 月発行



公益社団法人 日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。
購読会員として入会ご希望の方は、年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。
バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。
※第139号 (2025, No 3) は2025年10月発行予定です。